

CZ
3
02

田中 信頭 編纂

本朝民監

附錄
丙卷

千鍾房藏版

本朝民鑑附錄卷之三目錄

徵兵令

自 一 丁
至百四十九丁

萬國船舶信號

自百五十丁
至百八十丁

各管内物產取調規則

自百八十一丁
至百八十七丁

官金取扱規則

自百八十八丁
至二百二十八丁

府縣預米金出納順序

自二百二十九丁
至二百四十六丁

本陣
田中
...

府縣設爲換方手續

(附錄卷ノ四ノ掲出ス)

羊毛買上規則

自二百四十七丁
至二百四十九丁

神社改正規則

自二百五十丁
至三百六十八丁

社寺境内地所并舊領地處分手續

自三百六十九丁
至四百零六丁

社寺祿制

自四百零七丁
至四百七十七丁

廢合寺院跡地并建物處分規則

自四百七十八丁
至四百九十六丁

民有荒地處分規則

自四百九十七丁
至五百一十二丁

朱引内川岸地規則

自五百一十三丁
至五百十六丁

官有地土石堀取規則

自五百十七丁
至五百二十二丁

警察出張所設置方

(附錄卷ノ四ノ掲出ス)

水上警察規則

(同上)

警部巡查給與規則

(同上)

巡查召集規則

(同上)

消防規則

(同上)

盜難屈心得

自五百廿三丁
至五百廿八丁

懲治權入及出盤願手續

(附錄卷ノ四ノ掲出ス)

囚人護送規則

(同上)

獄事計表編製手續

(同上)

逃亡人々相繼々式

(同上)

諸業取締規則

自五百廿九丁
至六百卅一丁

短銃取扱規則

自六百三十二丁
至六百三十八丁

公私諸荷物繼立規則

自六百三十九丁
至六百六十二丁

疫牛處分假條例及傳染牛疫豫防規則

自六百六十三丁
至七百一十丁

患者死亡届書式

自七百一十一丁
至七百廿四丁

埋葬規則及埋葬地

自七百廿五丁
至七百卅七丁

燒場取扱心得

自七百三十八丁
至七百三十九丁

禁令

自七百四十丁
至七百八十二丁

官吏懲戒例

自七百八十三丁
至七百八十七丁

巡查懲罰

自七百八十八丁
至七百八十九丁

賣淫取締罰則

自七百九十丁
至七百九十五丁

貸座敷娼妓規則

自七百九十六丁
至八百二十八丁

讒謗律

自八百二十九丁
至八百三十二丁

本朝民鑑附錄卷之三

田中 信顯 編纂



明治八年十一月五日
大官 第六十一號 布告

今般徵兵令別冊之通改訂候條此旨布告候事

別冊

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯ヲ募リ

軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農

ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始

徵兵令

テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ
 實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當
 リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セサルベ
 カラス今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國ノ
 式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護
 ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕カ意
 ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五年壬申十一月廿八日

徵兵告諭

我

朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ日
 天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募リ以テ不
 服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ工タリ又商賈タリ
 固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキ
 ニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑
 神武天皇珍彥ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ爾後軍國
 ナ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二
 鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頹弛兵權終ニ武門
 ノ手ニ墜テ國ハ封建ノ勢ヲ爲シ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降
 テ後世ニ至リ名分全ク泯沒シ其弊勝テ言フ可カラズ然

徵兵令

ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ヒ遠ク郡
縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劔ヲ脱スル
ヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ
平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニス
ル基ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニ
アラス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ
固ヨリ其別ナカルヘシ凡シ天地ノ間一事一物トシテ稅
アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ
固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シ
テ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國
家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ス是故
ニ人々心力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害

ヲ防クノ基タルヲ如ルヘシ荷モ國アレハ則チ兵備アリ
兵備アレハ則チ人々其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之
ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意
ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜
ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵
制ヲ定ム故チ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地
理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可カラズ故ニ今其長スル所ヲ
取リ古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二
十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フ
ヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ依リ民庶
ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキモノ也

徵兵令

明治五年壬申十一月廿八日 太 政 官

徵兵令

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラサル者ニ
 テ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ言フテ俟タヌ其法
 タル古今共制ヲ異コシ各國其趣キテ同フセスト雖要ス
 ルニ一ニ民兵ニ因テサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰
 シ壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ
 兵役ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充ツル其內沿海ノ住民舟
 楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ而壯兵ハ自
 兵役ヲ望ミ出テ者ニシテ服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ
 熟練シ一團精兵トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レモ後
 日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法

ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ
 制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以程度トス今
 國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役
 ノ久キ恐ラシハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ
 於テモ關係無シト謂フヘカラス是ニ於テ斟酌其宜ヲ採
 リ折衷其要ヲ拔キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵
 兵令ト云フ

徵兵編成并ヒニ概則

徵兵ハ國民ノ年甫メテ二十歳ニ至ル者ヲ徵シ以海陸兩
 軍ニ充ツル者ナリ今爰ニ陸軍ヲ大別シテ三種トナ
 ス其一常備軍其二後備軍其三國民軍是ナリ又其兵丁ノ

徵兵令

身材ニ從日五派ノ兵種ニ區別ス曰ク砲兵曰ク騎兵曰ク歩兵曰ク工兵曰ク輜重兵而各種ノ兵皆各管鎮臺ノ國郡
ヨリ召集シ若干年ノ役ヲ帶ハシメ所管鎮臺ニ備ヘ以地
方ノ守衛ニ充ツ

其一

常備軍ハ本年徵兵ノ抽籤セシ者ヲ以編成シ三ヶ年ノ役
ヲ帶ハシムル者ナリ

第一條 在營中定額ノ日給ヲ與フ其他食料服類共

官給タルハシ

第二條 強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シキ者ハ拔

擢シテ近衛兵ニ充ツ

但近衛兵規則別ニ記ス

第三條 陸軍勤仕ノ望アル者ハ願ニ從フテ検査ノ

上級導團ニ入レ學業進歩ノ上ハ士官又ハ

下士ニ任ス

第四條 技藝ニ熟シ才氣アル者ハ人撰ヲ以其隊ノ

下士ニ任ス

第五條 下士ニ任セラレタル者ハ更ニ七ヶ年ノ役

ヲ帶ハシメ後備兵籍ヲ除ス最其人材ニ從

フテ後備軍ノ士官又ハ下士ニ任ス

第六條 兵卒ハ總ヘテ三ヶ年ノ服役ヲ有スト雖大

平閑暇ノ時ハ服役ニヶ年以上ニシテ技藝

熟練スル者ハ詮議ノ上歸休ヲ許ス

徵兵令

歸休證書并ニ規則

年 號	何府縣何郡所住居何族或職業	
	常備第何番	親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介
徵 兵	入營第何番	何 某

右入營以來操練ニ勉勵シ其他勤方宜敷候ニ付今ニ
 何ヶ月ノ間休暇申付候最非常ノ節ハ布令次第早
 々歸營可致事

年號月日 何 鎮 臺

第一則

銃器服類屬具共保存ノ手當ヲナシ姓名番
 號ヲ記シ一ツ書ニシテ其隊ノ給養掛軍費
 ニ引渡シ置クベシ

第二則

歸休中ト雖在營ノ心得ヲ以他出スルモ其
 管內ヲ出ツルヲ禁ス

第三則

歸休中萬一病氣ニテ期限通り歸營相成リ
 難キ者ハ醫師ノ證書及ヒ府縣ノ証印ヲ取
 リ其筋ヲ經テ鎮臺ニ届出ツヘシ若又父母
 ノ重病並ヒコ死没等止ムヲ得ナル事故出
 來ノ者ハ醫師ノ證書並ヒコ其事故ニ係ハ
 ル親族及ヒ府縣ノ証印ヲ以願出ツヘシ其
 節詮議ノ上日歐ヲ定メ之ヲ許スヘシ

其二

後備軍ハ常備軍三ヶ年ノ役ヲ勤メ終リシ者ヲ以編成シ
 常ニ家居シ産業ヲ營マシテ復之ヲ別ナテ二種トナス曰
 シ第一後備軍曰シ第二後備軍是ナリ
 第一後備軍ハ二ヶ年ノ役ヲ勤メシメ戰時ニ當リテハ直
 ナニ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充足セシムル可キヲ以
 歳ニ一度屯營ニ召集シ其技ヲ復習セシムル者ナリ

第一條

屯營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他食料服類

第二條

技藝ニ熟シ才氣アル者ハ服役中同軍ノ下
 士ニ任ス

第三條

服役中他出スル者管内ニ出シテ禁ス

止ムヲ得サル事故アル時ハ其鎮臺ニ願出
 テ免許ヲ請フヘシ最復習期限ニ妨碍ス可
 ラス

第二後備軍ハ第一後備軍二ヶ年ノ役ヲ勤メ終リシ者ヲ
 以編成シ尙二ヶ年ノ役ヲ勤メ第一後備軍ニ繼ギ召
 集スヘキ兵タルヲ以平時屯營召集ヲ要セサル者ナリ
 但服役中管内ヲ出ツル時ハ出入並ヒニ往先共其筋ヲ
 經テ鎮臺ニ届出ツヘシ最第一後備軍非常屯集ノ節ハ
 早々管内ニ歸ルヘシ

總ヘテ徵兵ノ服役期限ニ滿ツル者ト雖戰時ハ勿論非常
 ノ事故アル時ハ其期ヲ延ハカサルヲ得ス

其三

國民軍ハ常備後備兩軍ノ外ニ全國ノ男兒十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ載セ置キ第二後備軍召集ノ後ハ時機ニ從ヒ隊伍ニ編入シ其指麾ヲ待テ進退セシムル者ナリ

第一章 徵兵官員并ヒニ職掌

第一條 徵兵使

陸軍中佐或ハ少佐ノ内一人之ニ任シ府縣ニ出張シ知事令又ハ參事ト議シ徵兵ノ諸務ヲ總管ス

但時宜ニ由リテ副使ヲ遣ハシ代理セシム

第二條 徵兵副使

陸軍大中少尉ヲ以之ニ任ス人員ハ巡廻府縣ノ大小ニ應シ正使ヲ佐ケ職官及ヒ軍醫副以下ノ醫官ト共ニ區邑ヲ巡行シ徵兵規則ノ内ノ事件ヲ決議シ抽籤等ノ事

ヲ掌ル

第三條 書記

陸軍下士或ハ軍屬十等以下十五等迄ノ者ヲ以之ニ任ス人員ハ三人乃至三人トス徵兵使ノ諸記録ヲ掌ル

第四條 議長

府縣ノ知事令參事ノ内一人之ニ任ス徵兵ノ事ニ付キ審斷判決ノ事ヲ掌ル

第五條 議官

屬以下十五等迄ノ者ヲ以之ニ任ス人員ハ徵兵副使ノ數ニ准テ徵兵副使ト共ニ區邑ヲ巡行シ議長ノ職掌ヲ輔翼ス

第六條 議員

區長或ハ戶長ヲ以之ニ任ス人員ハ大抵其檢査スル所
ノ區數ニ倍ス公文ヲ布達シ民情ヲ上伸スル事ヲ掌ル

第七條 軍醫一人
徵兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヤヲ
檢査スル事ヲ掌ル

第八條 軍醫副ヨリ試補ニ至ル
徵兵副使ニ從ヒ區邑ヲ巡廻ス職掌軍醫ニ同人員ハ大
抵徵兵副使ノ數ニ倍ス

第九條 備醫
府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス人員ハ其檢査スル所ノ區數ニ
准シ軍醫ニ從ヒ其土ニ生スル所ノ疾病ヲ具狀シ兼テ
テ檢査ノ事件ヲ記録ス

第十條 筆生

府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス其人員適宜ニ任スト雖大抵議
員ノ數ニ准シ檢査抽籤中ノ件々ヲ記録スル事ヲ掌ル
第十一條 徵兵使并ヒニ議長軍醫ハ各府縣ニ滞在シ徵
兵ニ關スル諸務ヲ總裁ス書記之ニ屬ス副使議官軍醫
副以下組ヲ立テ、各區ニ分行スル者トス

第十二條 徵兵諸官ハ一歲ノ徵兵事務ヲ竣ハシハ悉職
ヲ解シ者トス

第二章 徵兵使巡行并ヒニ檢査前事務

第一條 徵兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第一章中第
二條第二條ニ揭示シタル陸軍武官并ヒニ軍醫等一行
ト爲リ府縣ニ出張シ地方ノ諸官ト合議シ徵兵署ヲ設

ケ常備ノ定員ヲ充タスコヨリ免役願出ヲノ者等總ヘ
テ徵兵ニ關スル事務ヲ管理ス其出務ノ時間ハ大抵本
省ニ准スト雖速ニ事務ヲ竣ハルヲ要スルヲ以時刻ヲ
變易スルハ時宜ニ由ルヘシ

第二條 代人料上納兵役免除ヲ願出クシ者ハ第六章中
ノ第十五條第十六條ニ揭示シタル書面ヲ以篤ト取糺
シ紛レナキ者ハ聞届クヘシ

第三條 府縣ヨリ陸軍省ヘ差出シタル徵兵連名簿ヲ照
シ當府縣ニ於テ當年徵兵幾人其内兵種相當ノ人員及
ヒ補充ノ員數ヲ算定シ又免役連名簿并ヒニ箇條書取
糺ノ中ニ就キテ學徒ハ學校ノ證書及ヒ科目免許書等
差出クサセ點檢スヘシ

第四條 徵兵ニ採ルヘキ者ハ免役規則ニ適スル者ヲ除
ク外如何ナル苦情之アルトモ決シテ聞届クヘカラス

第三章 常備兵免役概則

第一條 身ノ丈五尺曲未滿ノ者

第二條 羸弱ニシテ宿痼及ヒ不具等ニテ兵役ニ堪ヘ
ル者

第三條 院省使廳府縣ニ奉職ノ者

但等外モ此例ニ准ス

第四條 陸海軍ノ生徒

第五條 文部工部開拓其他ノ公塾ニ學ヒタル專門生徒
及ヒ洋行修業ノ者并ヒニ醫術馬醫術ヲ學フ者教導職
試補ノ者

徵兵令

但教官ノ証書并ヒニ何等科目ノ免許書アル者 科目
ノ等未定

第六條 一家ノ主人タル者

第七條 嗣子并ヒニ承祖ノ孫

但養子約束ノミニテ未實家ニ在ル者ハ此例ニ非ス

第八條 獨子獨孫

第九條 罪科アル者

但除族并ヒニ懲役實決一ヶ年以上ノ刑ヲ蒙リタル者

第十條 父兄存在スレ共病氣若クハ事故アリテ父兄ニ

代ハリ家ヲ治ムル者

第十一條 常備兵在役中ノ者ノ兄弟

第四章 徵兵検査

第一條 徵兵検査定日ハ前以陸軍省ヨリ各府縣へ布達

シ區括リ日割リヲ以一日幾人ト定メ區長或ハ戶長ノ

内順序ニ召連レ出ツヘシ

第二條 徵兵使巡行ノ時節ニ至レハ府縣廳ヨリ各區ニ

左式ノ野紙ヲ渡シ本年徵兵タル者ニ一枚宛渡シ當人

ヲシテ朱書ニ示シタル如ク姓名産國住居親ノ名或ハ

兄叔伯總ヘテ戶主タル者ノ名本年月日誕生年號月日

其他野紙題號ノ下ニ父母ノ存亡ハ勿論同居ノ祖父母

兄弟妻子及ヒ氏神宗門等書載セシメ人別表ト稱ヘ檢

査ノ時各個持參シ軍醫ニ渡スヘシ

區々ニ渡シタル野紙ノ残りハ徵兵事務竣ハルノ後

府縣廳へ返納スヘシ

徵兵		(朱) 親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介			何某		
		(朱) 年號月日					
何郡所產何府縣何族或職業		何郡所住何府縣何族或職業			何郡所住何府縣何族或職業		
父	母	祖父	祖母	兄弟	姊妹	子	
職業		名		歲		數	
氏		神		宗		門	

但産國ト現今ノ實屬府縣ト異ル者ハ表首何郡所産ト書スルノ上ニ其産國ノ府縣ヲ加ヘ若又寄留スル所ニ於テ服役スル者ハ何郡所住ト書スルノ替リニ其寄留スル府縣及ヒ何郡所寄留ト書スヘシ

第三條 徵兵ノ體質ヲ検査スル時ハ徵兵副使隨官各一名列坐ス検査ノ件々ハ總ヘテ軍醫ノ專任ナルヘシ

第四條 徵兵検査ノ席ニ出ツル時ハ各個人別表ヲ所持シ醫官ニ渡ス醫官ハ書記ヲ掌ル者ニ渡シ姓名ヲ検査簿ニ留メシメ身體骨格検査ノ件々ヲ記セシム

第五條 検査呼出シノ時ニ病氣ニテ出席成リ難キ者ハ時トシテハ其家ニ就キ診斷ノ上一時或ハ固着等ノ病質ヲ糺シ一時病氣ノ者ハ翌年ノ徵兵ニ廻シ固着ノ者

其免役規則精神者同斷り、
 第六條 検査呼出シ時ニ父母ノ重病及ヒ一家ノ安危ニ係リニ
 時止ムヲ得ル事故出来ル者ハ夫々詳細書及ヒ兵長
 ノ証印ヲ以願出ル者ハ翌年ノ徵兵ニ廻スヘシ、
 但翌年ニ廻スヘキ徵兵ハ府縣毎ニ別簿ニ認メ徵兵
 署ノ檢印ヲ押シ府縣廳ニ留置キ當冬ノ徵兵連名簿
 共ニ陸軍省ニ差出スヘシ、
 第七條 徵兵署ニ隔タリタル區邑ハ副使軍醫副以下ノ
 醫官及ヒ職官一行トナリ組シ分テ巡廻セシメ相應ノ
 場所ニ於テ假リニ検査場ヲ設シ其式本署ニ異レナシ、
 第五章 抽籤并ニ讀算試験

第一條 身體検査終リタル後検査簿ヲ案シ兵役ニ適ス
 ヘキ者ヲ點檢シ府縣毎ニ常備抽籤召集ノ爲其定日及
 ヒ場所共前以布達スヘシ、
 第二條 抽籤ノ場所ハ府縣廳所在ノ地或ハ管内便宜ノ
 地ヲ以ス、
 第三條 抽籤ヲ五種ニ分テ其身材ニ從ヒ步騎砲工輜ノ
 籤ヲ抽カシム、
 第四條 本年常備ノ缺員ヲ補フ爲補充兵トシ九十日ヲ
 期トシ常備一ケ年ノ徵員二分ノ一以内ノ員數ヲ常備
 籤ト同時ニ抽カシム、
 第五條 抽籤ノ法ニ籤丁ニ調シ左式ノ如ク籤札ヲ其員
 數丈ノ番號ヲ記シ籤箱ニ納シ籤簿方ノ側ニ置庶區分

ヲ或ハ郡分クニシテ混雜セキハ様ニ入宛之ヲ抽券
 ヲ籤簿方ハ始終籤簿ニ對シ抽籤ノ正不正ヲ監シ抽
 券シテハ其番號ヲ自高聲ニ唱ヘシメ籤札ヲ受取リ籤
 簿ニ姓名番號ヲ記シ復之ヲ當入ニ返ス
 假令ハ籤丁五百人ナルハ第一番ヨリ五百番迄ノ
 札ヲ納レ之ヲ抽カシム本年常備定員二百人補充百
 人ナルハハ二百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ常備トナシ
 二百一番ヨリ三百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ補充トシ
 其餘ヲ以落籤トス

(歩騎砲工輜)

何番

籤札ハ厚紙縱横三ツ或ハ四ツ切
 ヲテ四ツ折ニシテ中分ヲ拈ル

第六條 抽籤當日病氣ノ者ハ父兄親族又ハ戸長ヲ以代
 入トス

第七條 抽籤以前ニ常備幾人補充幾人及ヒ籤丁ノ總員
 幾人ト白紙ニ大書シ籤丁ヲシテ之ヲ知ラシムヘシ

第八條 抽籤終リ常備及ヒ補充ニ當リタル者ハ書翰往
 復算術等出來得ルヤ否ヤヲ試ムヘシ

第九條 書翰並ヒニ算術ノ試験ハ筆生ノ内算術ヲ必得
 居ル者ヲ撰任シ試験場ヲ設ク其任法ハ二三行ノ翰牘
 ヲ讀ミ易キ様三四枚認メ并ヒニ十露盤等備ヘ置キ一
 人宛讀文算術ノ内出來得ルヤ否ヤヲ問ヒ出來得ル者
 ニハ讀文ハ右翰牘ヲ讀マシメ無滞讀ミ得ル者ヲ上等
 トシ二字以上誤ル者ヲ下等トス算術ハ除法以下誤リ

第十條 試驗全ク終ハルノ後籤簿ヲ照シ人別表ト引合セ姓名住居其他共左式ノ如ク厚紙長サ五寸幅三寸ノ割符ニ書載セ籤簿ニ引合セ割印ヲナシ番號並ヒコ服役年期ヲ書加ヘ籤簿順ニ呼出シ籤札ヲ出ササメ相違ナキ者ヘハ籤札ト右番號割符ト引替ヘ相渡スヘシ番號割符

割印	
年	月 號
陸 軍	
兵種	番號
何 某	
親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介	
何府縣何郡所住居何族或職業	

日	省
右何鎮臺常備軍三年服役申付候事	

補充籤ヲ抽キシ者ハ 右何鎮臺補充兵九十日服役申付候事

第一後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第一後備軍二年服役申付候事

第二後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第二後備軍三年服役申付候事

第十一條 補充役ヲ命セラレタル者ハ其家ニ歸居シ常備缺員ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤順ニ布達シ何時コテモ入

徵兵令

營ヲサシムヘキニ付キ服役中ハ其管内ヲ出ツルヲ禁
ス

但本年常備兵入營期限初日ヨリ算シ九十日目ノ其
日迄ニ常備入營ヲ命セラレサル者ハ即除役ト心得
ヘシ

第十二條 補充ヨリ常備軍ニ命セラレタル者ハ本人入
營ノ月日ニ拘ラス總ヘテ自分同年ノ常備兵入營期限
初日ヨリ三ヶ年ノ期ヲ保ツヘシ

第十三條 常備軍滿期ノ者ハ後備軍ノ番號割符ヲ渡シ
而常備役ノ番號割符ニ滿期ノ檢印ヲ押スヘシ

第十四條 第一後備軍滿期ノ者ハ第二後備軍ノ番號割
符ヲ渡シ而第一後備役ノ番號割符ニ滿期ノ檢印ヲ押

スヘシ

第十五條 第二後備軍ノ番號割符ヲ受ケ服役二ヶ年ノ
後ハ第二後備軍ノ籍ヲ除セラレシ者ト心得ヘシ

第十六條 徵兵使ハ各府縣ニ於テ徵兵事件全ク竣ハル

ノ後徵スル所ノ兵員ヲ精算シ兵種ヲ分テ左式ノ野紙

ニ各個持參致シタル徵兵人別表ヲ寫シ取り身體檢査

表讀文算術試驗簿及ヒ籤番號ヨリ狀貌其他題號ノ下

ニ悉書載セ兵卒明細連名籍ヲ認メ常備補充ヲ區別シ

一府縣ニ纏メ各二部ヲ作り陸軍省及ヒ所管ノ鎮臺ヘ

差出タスヘシ

但鎮臺ヘ渡ス兵卒明細連名籍ハ籤簿ヲ添ヘ四月十

五日迄ニ差廻スヘシ

親或兄 叔伯名	親 本人姓名	產 國	住 所	誕 生	族 親	職 業	氏 神	宗 門	父	母	祖 父	祖 母	兄 弟	姊 妹	妻	子	尺 度	體 質	讀 文 算 術		
																				備 常	備 充

備 考	番 號		兵 卒 明 細 連 名 籍	骨 相	顏	額	眼	鼻
	補 充	常 備						
					長短方圓大小扁 平廣潤等字	長短廣狹扁凸等 字	大小銳鈍凹陷凸 起舉垂細圓等字	隆卑大小反戾彎曲 鼻梁高低鼻翼大小 鼻孔朝天大小等字

陸軍省

口	大小上下唇厚薄 露齒等字			
願	長短尖圓張彎曲 等字			
髮	濃淡疎密茶褐卷 縮等字			
眉	濃淡疎密長短細 大等字			
痘	天然(種)			
別徵				

第十七條 徵兵出席ノ名簿ヨリ代人料上納名簿免役名簿其他種々ノ願書及ヒ屆書區長戸長ノ取調ヘ証書總

徵兵令 徵兵ニ關スル書類ハ一切兵卒明細簿名簿ト共ニ陸軍省ヘ差出タスヘシ

第六章 徵兵雜則并ヒニ扱方ニ關スル事
 第一條 常備徵兵ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨリ五月一
 日迄ニ入營致スヘシ其營所迄ハ府縣毎ニ區括リテシ
 テ區長或ハ戸長ノ内召連レ出ツヘシ最營所ニテハ鐵
 ノ番號ヲ目的トシテ入營ナサシムヘキニ付キ阻礙ナ
 キ様注意スルヘシ尤入營迄ノ入費ハ總ニ其徵兵入費概
 則ニ取調シ賜ハルヘシ若事故アリ入營遲延ニ及ブ事
 故其事故ヲ生スル所ヨリ辨スルヘシ入費取調シ
 但書中區括リト稱スル者ハ區ノ大小人口ノ疎密ニ
 依リ二區一區區或ハ三四區括リ總ニ府縣ノ便利ニ依リ

第二條 籤ノ番號ハ服役中ノ目的タルヘキヲ以各個丁
軍ニ所持致スヘシ

第三條 病氣或ハ事故出來期限通り入營相成リ難キ者
ハ其段詳細ニ書認メ區戸長及ヒ其病氣事故ニ係リ
ル者ノ証印ヲ取リ其筋ヲ經テ至急ニ其籤臺ヘ届出ツ
ヘシ

第四條 常備軍服役在營中其身元轉居スルハ其父兄
或ハ親族ノ者ヨリ直ニ本人ニ通報シ本人ヨリ自己所
屬ノ下士ヘ届出ツヘシ歸休中ノ者ハ第九條第一後備
服役中轉居ノ届同斷タルヘシ最自己所屬ノ下士ヘモ
同様届出ツヘシ

第五條 常備軍服役中歸休郷里ニ在リテ死没スル者ハ

其戸主ヨリ其筋ヲ經テ籤臺ヘ届出ツヘシ

第六條 常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診斷ヲ以病院
ニ入レ治療セシメ其上ニテ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍
ヲ除クヘシ最歸縣迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ賜ハルヘシ

第七條 父母ノ重病或ハ非常ノ事故出來一時止ムヲ得
スルヲ歸省ヲ願フ者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ府縣廳
ノ與書証印ヲ以所管ノ籤臺ヘ届出ツルニ於テハ詮議
ヲ遂ケ許可スヘシ最滞郷日數ハ往來ヲ除クノ外二週
間ヨリ長カルヘカラス

但旅費ハ往來共自辨タルヘシ

第八條 第一後備軍ノ復習期限ハ年々十日以前ニ其籤

臺ヨリ布達ノ旅費等ハ徵兵入費概則ニ照準シ里程ニ
應シ相渡スヘシ若病氣或ハ事故出來ノ者ハ第三條ノ
通り届出ツヘシ

第九條 後備軍服役中同府縣内へ轉居スルハ左ノ第
一式ノ通り戸長ノ姓名與書証印ヲ取り其筋ヲ經テ鎮
臺へ届出ツヘシ若他府縣へ轉居スルハ同軍管ナレ
ハ左ノ第二式ノ通り他軍管ナレハ同式中兵籍御送り
方ノ字ヲ第何軍管第何後備軍へ御編入替ト認メ前手
續キヲ以願ヒ出ツヘシ

第一式

私領此度何郡所へ轉居仕候間此段御届申上候以上

年號月日

年號第一(二)
後備軍第何番

何府縣何郡所住所族或職業

何 某 印

何鎮臺

御中

前書之通相違無御座候以上

何郡所戸長

何 某 印

第二式

私儀此度何府縣何郡所へ轉居仕候間兵籍御送り方
相成度此段奉願候以上

年號月日

年號第一(二)
後備軍第何番

何府縣何郡所住所族或職業

何 某 印

何鎮臺 御中

前書之通相違無御坐候以上

何府縣何郡所戸長

年號月日

何 某 印

第十條 後備軍服役中ノ者若院省使廳府縣ヨリ登庸セ
 ント欲スルキハ其官廳ヨリ其鎮臺へ掛合フヘシ

第十一條 後備軍服役中死没ハ其戸主ヨリ其筋ヲ經テ
 鎮臺へ届出ツヘシ若國禁ヲ犯シ或ハ脱走等ノ者アル
 キハ其府縣廳ヨリ箇條書ヲ以届出ツヘシ

第十二條 全國ノ男兒齡十七歳ヨリ國民軍籍ニ入り外
 寇又ハ有事ノ時ニ當リ隊伍ニ編入シ或ハ守衛トナシ

國ハ征軍ナキニシテ以十六歳ノ冬十一月十日マ
 テニ其戸主ヨリ戸長へ届出ツヘシ最一家ノ主人タル
 者ハ自分ヨリ届出ツヘシ戸長之ヲ取調ヘ所轄ノ區へ
 差出テ區長点檢ノ上區括リコシテ府縣廳へ差出テ
 シ翌年ノ成丁簿ニ載セ之ヲ備へ置キ而國民軍人員表
 ヲ製シ陸軍省へ差出タスヘシ

第十三條 男兒二十歳ニ至レハ兵役ニ就クヘキヲ以毎
 年十二月廿五日迄ニ府縣廳ニ於テ十九歳ノ者ヲ調ヘ
 徵兵連名簿ニ載スルコトス是故ニ十九歳ノ者ハ其年
 ノ十一月十日迄ニ必戸長へ届出ツヘシ戸長之ヲ取調
 ヘ其内免役ニ適スル者アレハ篤ト取調ヘ夫々箇條書
 相添へ區長へ差出タスヘシ區長ハ十一月卅日迄ニ區

括リニシテ証印ヲ府縣廳ニ差出タスヘシ府縣廳之
 点檢シ徵兵連名簿ニ載セ十二月廿五日迄ニ陸軍省ニ
 送出タスヘシ最免役ニ適スル者ハ區々ヨリ差出タ
 消ル免役箇條書ヲ取札シ免役連名簿ヲ作り各個箇條
 詳細ニ書載セ徵兵連名簿ト共ニ差出タスヘシ其中
 學徒ハ夫々其修業スル處ノ學校ニ掛合ヒ教官ノ証書
 及ヒ科目免許書等取寄セ置キ徵兵使巡行ノ日差出
 スヘシ若右証書科目書等之ナキ者ハ一月中ニ呼返
 置クヘシ最洋行修業ノ者ハ此例ニ非ス
 第十四條 寄留スル者ノ子弟及ヒ厄介タル者ハ現今寄
 留スル府縣ノ兵籍ニ入ルヘシ
 但本籍ニ歸リ兵役ヲ勤メシト欲スル者ハ十九歳ヲ

一月十日迄ニ其段ヲ戶長ニ届ケ戶長ヨリ送リ置
 タ以テ本籍ニ歸ルヘシ
 第十五條 本年徵兵ニ當リ自己ノ便宜ニ由リ代人料金
 二百七十圓上納願出ツル者ハ常備後備兩軍共之ヲ免
 ス
 免役上納金ハ其府縣廳ニ纏メ五月中ニ陸軍省ニ相
 納ムヘシ
 第十六條 免役ヲ願出ツル者ハ其親戚ハ親族ノ者ヨリ
 徵兵使巡行徵兵檢査以前左ノ願書ヲ認メ戶長ノ與書
 証印ヲ以區長ニ差出タシ區長ヨリ徵兵署ニ差出
 ス
 其親戚ハ親族者願書並ニ戶長與書案文

私何男親甥族 何某儀當年二十歲ニ相成服役可仕管之處家事差支有之ニ付代人料金貳百七十圓上納仕候間何卒常備後備兩軍共御差除被下度奉願上候以上

年號月日

何府縣何郡所住何族或職業

何某印

陸軍徵兵署

御中

前書願出之通相違無御坐候以上

何郡所戶長

何某印

同日

區長進達書案文

當區内免役願出候者幾名戶長ニ與書証印ヲ以テ

別冊之通リ差出候間精細吟味仕候處毛頭不都合ノ筋無御坐候間及進達候也

何郡所第何大區長

何某印

年號月日

陸軍徵兵署

御中

第十七條 徵兵ニ關スル事件ニ付キ年齡及ヒ父母兄弟ノ有無又ハ虛病其他詐偽スル者ハ官ヲ欺罔スルノ罪若又戶長或ハ區長取調ヘ証印ノ上ハ其証印ヲナセシ官吏ハ粗漏ノ罪尙又徵兵ノ欺妄ヲ隱匿スル者ハ其罪最重ナルヘ右孰モ常律ヲ以其罪ヲ糺ス可キナリ

明治八年十月

(改正) 明治九年二月四日
太政官第九號布告

明治八年十一月第一號布告第六十三號布告徵兵令第三章第四條左
ノ通改正候條 此旨布告候事

徵兵令第三章第四條

第四條 陸海軍少生徒並主船寮定雇職工者

(改正) 明治九年四月一日太
政官第四十三號布告

徵兵令第六章第十三條中ニ掲載有之成丁籍ヲ國民軍名

簿ト改正候條此旨布告候事

(改正) 明治九年六月三十日太
政官第九十七號布告

徵兵令中徵兵編成並概則其一中左ノ通增加并改正候條

此旨布告候事

增加並改正候條

第三條 讀書算術ノ出來得ル者ハ檢査格例ニ照シ拔擢

シテ教導團ニ入レ卒業ノ上下士ニ任ス其學術秀逸ニ

シテ殊ニ行狀方正ナル者ハ又之ヲ拔擢シテ士官學校

ニ轉入セシム

改正

第三條ヲ第四條トシ

陸軍勤仕ノ望ムル者ハ願ニ從テ檢査ノ上教導團

ニ入レ學業進步ノ上拔擢採用スル事亦上條ニ照準

ス

第四條(四)(五)第五條(五)(六)第六條(六)(七)

漢語人員

(參考) 明治六年三月廿九日太政官
第九十九號布告以府縣ニ達

徵兵使ノ儀ハ順次ヲ以テ各府縣へ發遣候等ニ付
期限人員ハ追テ陸軍省ヨリ可相違且徵兵署取設
事務取扱向ハ都テ同省へ伺出差圖ヲ受可取計此
旨相違候事

(参考) 明治八年十
月陸軍省達

訂改 徵兵令參考

徵兵ノ法タル專ラ陸軍ニ屬スト雖又民政ノ一
部タルヲ以テ地方官ノ任亦其重キニ居ル夫地
ニ生シ官ニ收メル者之ヲ租稅ト云フ地方官實
ニ之ヲ掌ル是故ニ租稅ノ納ラサル責テ地方官
ニ任ス今地方官ニ任スルノ民ヲ以國ヲ護スル

ノ兵トナス然ラハ則兵ノ未熟ナル陸軍ニ於テ
其責固ヨリ敢辭セサル所ナリ抑徵兵ハ未全シ
兵トナラサルノ稱ニシテ兵トナルニキ者ヲ實
スルノ謂ヒナリ而兵ハ骨格體質ヲ擇フテ主
ス此強兵ノ基シ所ニシテ實ニ護國ノ基本陸軍
ノ本務ナリ是故ニ徵兵使アリ軍醫アリ以丁壯
ヲ檢査ス今其檢査ニ當タル者ハ則地方所轄ノ
民クシテ未全ク兵タルヲ得サル者ニシテ猶租
稅ト異ルナレ故ニ云フ地方官ノ任其重キニ居
ルト明治五年
勅意ヲ以普ク徵兵令ヲ布シ然レモ其法極メテ
簡易唯ニ其要領ヲ舉シテ而已故ニ支務未事ニ

至其時日ヲ費ヤス是ニ於テ今本令ヲ設解シ一
部トナシ以地方ニ分與シ又其關ヲ增補シ遂ニ
徵兵ノ事ヲシテ
上意ニ適セシメシテ
明治七年十二月
陸軍卿山縣有朋

大正八年十月 改訂

第一條 本令第二章一條ニ示シタル徵兵署ハ府
縣廳所在ノ地ヲ以相當ノ場所トナスト雖管内
中央集合便宜ノ地ニ設クテ最好トス其
部ノ検査場ハ丁壯ニテ暫時裸體ナラシメ眼
色耳孔ニテ全體ヲ検査ス遂ニ四支ノ運動ニ及

以テ官舎或ハ社寺等ノ家屋興行ハ凡間朝
日五六間以上成丈明カナル温室ヲ要ス又本令
第四章第七條ノ例ヲ據ニ區邑ヲ巡廻シ検査ス
ルヲ以豫管内集合最密ノ地ヲ各所ニ見立本年
徵兵多寡ニ應シ大凡一所二百人トシ或ハ二个
所或ハ三个所其宜キヲ計リ前ニ示ス如キ検査
場ヲ確定シ例年徵兵連名簿進達同時ニ右徵兵
署並ニ各所検査場及ヒ各所徵員且應下ヨリ各
所検査場ヘノ里程等詳細ニ申出ツヘシ
但巡廻検査ハ徵兵署隔遠ノ者ヲシテ往復ノ
費用ヲ省カシメテ爲メニスルヲ以検査場ヲ
四五个所ニ設ク或ハ管内ノ總員ヲシテ悉ク

徵兵署ニ集合セシムルモ實地ノ適宜ニ任ス
 第二條 本令第一章第六條ニ示シタル徵兵議員
 ニ區長戶長ヲ以任スル者ハ民間苦情ノ上伸
 易キ爲ナリ且其議員ハ全ク本年丁壯ノ總代
 ヲテ丁壯中事故アリ一家生計ニ係ル等ノ苦情
 アルキハ敢テ丁壯ノ代ヲ建議スルヲ職トス是
 故ニ區長戶長ニ限ラス鄉村中ノ人望アル者
 以スルモ妨ケナシ又丁壯ヲ郡或ハ區括リコ
 テ議員ニ配賦スベシ假令ハ甲郡區ノ丁壯ハ何
 某議員ニ總括シ乙郡區ノ丁壯ハ何某議員ニ總
 括スト云フカ如シ復議員ノ數ハ檢査スル所ノ
 區數ニ倍スル者ハ前條ニ示シタル各所檢査條

毎ニ約議員三人宛ヲ要スルノ謂ヒナリ最檢査
 場ヲ合併スルモハ相當ノ議員ヲ加フヘシ備置
 學生ノ員數モ亦之ニ同シ
 第三條 本令第二章第一條ニ示ス如ク毎年二月
 十五日ヨリ徵兵使發行シ四月十日迄ニ復命ス
 ルヲ定例トス是故ニ其時間ハ豫本年徵兵連名
 簿ニ記載ノ内他所ニ寄留シ呼返スヘキ者ハ勿
 論舟業商用其他出稼等ノ者迄遺漏ナク呼返シ
 家住致カセ檢査呼集ニ不都合ナキヲ緊要トス
 第四條 徵兵ノ身幹ハ五尺以上ノ定則ト雖土地
 人種ニ由リ定尺ニ當タル者十カ一ヲ得ル能
 ス就中歩兵ノ定員ハ他兵ニ十倍ス故ニ歩兵ニ

限り四尺九寸以上ヲ採用スル時宜ニ因ルベシ

第五條 本年ノ徵兵抽籤ノ列古入り常備役志願
ニテ補充或ハ落籤等ヲ慮ル者ハ其親或ハ兄
叔伯惣ニテ戸主タル者會得コテ戸長証印ノ上
ハ抽籤以前ニ常備番號以内ノ籤ヲ抽カシム

第六條 本年ノ徵兵各自抽籤ノ上便宜ヲ以籤番
號ノ互換ヲ願出ツル者ハ同府縣内ノ親族間ニ
限リ互ノ親或ハ兄叔伯惣ニテ戸主タル者會得コ
テ雙方戸長証印ノ上ハ陰識ニ及フヘシ最徵兵
署解散ノ後ハ此限ニ非ス

第七條 本令第五章中ニ示シタル徵兵ノ抽籤ハ
府縣内合格及丁壯ヲ徵兵署ニ集合シ各個各

自ニ抽カシム可シト雖各所検査合格ノ丁壯ヲ
再ニ徵兵署ニ集合セシム或ハ滞在等ノ費用少カ
クテ其ヲ以検査合格ノ者ハ同時讀文算術ヲ試
シ歸家ヲ許シ抽籤ハ各丁總代議員ヲ以代抽セ
シ其番號ニ應シ割符ヲ其議員ニ附シ各丁ニ
傳與セシムルモ時宜ニ由ルヘシ

但時宜ニ由リ代抽傳與ニ決スルキト雖自抽
籤ヲ欲スル者ハ其望ニ任スヘシ

第八條 本令第六章第十五條ニ示シタル代人料
ヲ納メ免役願出ツル者ハ検査ノ上合格ノ者耳
價金ヲ出カシム其金額ノ如キハ兵卒三ヶ年
間給與スル衣食物器ノ雜費ヲ計算スル者ニシテ

例外ノ法トナス是故ニ代人料ヲ納ムル者幾人
 アルト其府縣徵兵ノ定員ヲ減セズ
 但免役ヲ願フ者多クシテ徵募スヘキ人員
 不足ヲ生スルトハ臨時ノ除讞ニ及フヘシ
 第九條 本令第二章第四條ニ應ジ徵兵連名簿ニ
 記載ノ者止ムヲ得サル苦情アリテ戸長ヨリ詳
 細書ヲ以免役ヲ申立ツルト雖檢査以前ニ非サ
 レハ決シテ除讞ニ及ハス
 第十條 本令第六章第一條ニ照準シ常備新兵ヲ
 入營セシムルトハ府縣内最寄ヲ分テ一隊或ハ
 二群トナシ戸長之ヲ引纏メ入營セシムヘシ尤
 豫到着日限ヲ其銃臺或ハ營所ヘ報知シ到着ノ

上ハ即刻届出ツヘシ
 但到着日限ヲ期シ難キ島嶼等ノ如キハ臨機
 ノ扱ヒヲナスコト必シモ此限ニ非ス
 第十一條 常備新兵入營ノ期ニ至リ病氣又ハ他
 ノ事故コトヲ期限通リ入營シ難キ者ハ醫師ノ診
 斷書或ハ事故ニ關スル者ノ證書ニ區長及ヒ戸
 長ノ與書証印ヲ以管廳ヲ經テ其銃臺ヘ届出ツ
 ヘシ快氣或ハ其事故既済ノ上ハ即日従前ノ手
 順ヲ以届出ツヘキハ勿論入營期限初日ヨリ算
 シ往キ三十日ニ至リ入營シ難キ者ハ前件ノ通
 届出ヲ其翌日ヨリ復三十日ニ至リ尙入營シ難
 シ前件同様届出ツル者ハ翌年徵兵ニ廻スヘシ

第十二條 常備新兵入營以前逃亡或ハ他ノ犯罪等ノ者ハ素日ノ軍律ヲ以處置セザルベシ若捜索又裁判中ノ者ハ前條入營延期ノ者同機其時及届出ツルベシ

第十三條 常備新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死没等止ムヲ得サル事故出來入營延期ヲ願フ者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ管廳ノ奥書証印ヲ以其鎮臺ヘ届出ツルニ於テハ本令第六章第七條ニ準シ詮議ニ及フベシ

第十四條 本年常備補充ノ命ヲ蒙リ入營以前若過テ陸軍ノ番號割符ヲ損傷遺失スル者ハ速ニ管廳ヘ届出テ管廳ニ於テハ直ニ地方裁判所

ニ附シ又其由ヲ鎮臺ヘ届置キ裁判既済ノ上再ヒ斷案ヲ以鎮臺ヘ届出テ其指揮ニ應スルニ尤途中或ハ營所外滯在中ニ在ルハ附添區長或ハ戶長ヨリ其旨鎮臺或ハ其營所ヘ届出ツベシ

第十五條 本令第六章第七條ニ準シ常備服役中ノ者若非常ノ事故ニテ止ムヲ得サルハ歸省ヲ願フモノハ詮議ニ及フベシト雖入營後六個月未滿成業ニ至ラス或ハ實地演習又ハ臨時觀兵ノ舉アルキハ此限ニ非ス

第十六條 補充兵ハ常備ノ補欠兵タルヲ以何時入營ノ覺悟アルベシ固ヨリ自己ノ管内ヲ出ルルヲ禁スル雖止ムヲ得ル事故出來管地

出テシヨク欲スルルハ其事實並ヒニ往ク所ノ
國郡村名及ヒ往返日數等ヲ記シ置キ十日以内
其管廳ニ於テ許可スヘシ

第十七條 本令第六章第十三條ニ示セタル毎年
十二月二十五日限り本省ニ送達ノ徵兵連名簿
ハ府縣款名ノ野紙ニ第一式ノ如ク認メ年齢計
算ハ第二式表面ニ揭示セタル前年二月十六日
始メテ滿十九歳トナル者ヨリ本年二月十五日
迄ニ滿十九歳トナル者迄取調フヘク即翌二月
十五日滿二十歳以上二十一歳未滿ヲ以徵募
付クヘク者トス最免役ニ適スル者ハ第三式ノ
野紙ニ認メ用紙ハ美濃或ハ海業ニテモ府縣ニ

便宜ニ應ス總ヘテ認メ方ハ一大區或ハ一郡括
リニ合計ヲ奉ケ逐ニ一府縣ニ總計シ連名順序
ハ他村町ノ者ト混雜セサルヲ要ス假令ハ甲村
ノ成丁ヲ書シ終ルノ後乙村ニ移スノ類ニシテ
一村毎ニ餘白ヲ存スルニ及ハス尙朱字ヲ以離
形野紙ニ認メ方ヲ示ス

第一式 徵兵連名簿離形

- 第一大區或何郡
- 一小區何村 族職業 親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介
 誕生年月日 何 某
- 全 同 同 全
- 以下准之
- 合計幾人

第二式 年齡計算表

但此表明治八年ヲ以標目トナス

安	政	元	甲	實	年	全	卯年
二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月
十六日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	十五日
徵兵連名簿記載之者							
明治七年二月十五日	十九年十一月十五日	十九年十月十五日	十九年九月十五日	十九年八月十五日	十九年七月十五日	十九年六月十五日	十九年五月十五日
明治八年八月徵募之者							
明治八年二月十五日	二十年十一月十五日	二十年十月十五日	二十年九月十五日	二十年八月十五日	二十年七月十五日	二十年六月十五日	二十年五月十五日

第三式 免役連名簿離形

線以下(朱)他做之

姓名	住所	戶主	誕生	族職業	徵兵令第三章中ノ者	姓名	住所	戶主	誕生	族職業
何某	何小區何町何番地	何某	何年何月何日	何族	(矮小) (砂) (蹇)	何某	何小區何町何番地	何某	何年何月何日	何族
同	同	同	同	同	官省府縣何官陸(海)軍奉職何等出仕	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	生徒	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	工學鐵學 文部等ノ 專門生徒	同	同	同	同	同

徴兵令

第十八條 本令第三章第一條ニ當タル者ハ府縣
毎ニ豫丁壯ノ身幹ヲ尺度シ四尺九寸未満ノ者

六五

徴兵令第三章中ノ者	個條ニ當ル者	姓名	住所	戸主	誕生	族職業
						洋行修業獲 年月寄留地 ヲ治ムル者
						父兄ニ代リ家 ヲ治ムル者
						(兄弟)何某海軍在役 近衛 何兵在役 鎮臺

六四

徴兵令第三章中ノ者	個條ニ當ル者	姓名	住所	戸主	誕生	族職業
						僧
						雜業 ノ孫 嗣子或ハ承祖
						獨舟 獨孫 獨子或ハ
						夫 徴役一ケ年以上ノ 刑ヲ蒙リタル者

免役連名簿

何府縣

免役簿記載ニ第二條ニ當列以者ハ其取捨分明大細サレテ以顯然タル矮小眇蹇聾啞或宿病不具等ノ者ニ免役簿ニ載セ右孰モ徵集スヘカラス

但宿病ノ者ト雖判然家業等營ニ難キ者ニ非サレハ此限ニ非ス

第十九條 本令同章第三條ノ官省使廳府縣ニ奉職スル者ト雖顯然タル等外四等迄ニ非サレハ假令給仕用使或ハ事務繁劇ニ付キ一時雇入ノ者ト雖總ヘテ免役ニ屬ス可カラス尤御用掛御雇等ノ名義ニテモ餘人ヲ以換フヘカラサル事務ヲ奉スル者等ノ如キハ特ニ正院ニ上仰レテ

裁決ヲ乞フヘシ

第二十條 本令同章第五條ニ示シタル文部ノ生徒ハ外國語學校教則下等語學ノ教科ヲ卒業シタル以上並ヒニ師範學修業ノ者又ハ師範學校ノ證書ヲ得タル者其他專門學修業ノ者ハ免役ニ屬スヘキハ勿論省使其他私學ヲリハ政府許可ノ教員及ヒ私雇外國人ニ隨學ノ者ハ都ヘテ文部省定メ外國語學校教則下等語學卒業生徒并ヒニ專門學修業生徒相當ノ者及ヒ中學教科ヲ卒ハル者ハ免役ニ屬スヘシ因テ本令第六章第十三條ノ例ヲ踐ニ徵兵連名簿調ノ時各自証書ヲ出サシムヘシ

但即今文部ノ學則ヲ以比シ難キ土地柄或ハ國學其他學則未定ノ馬醫術等ノ如キ判然分界ヲ付ク難キ者ハ總ヘテ徵兵連名簿ニ載セ徵兵署開設ノ時各自其修業履歷並ニ教師ノ證書ヲ以本令第二章第四條ノ例ニ準テ申立ツヘシ

第二十一條 諸省使、雇入外國人ニ附屬ニ官費ヲ以技藝傳習中ノ者ハ第二十條ノ例ニ準テ免役ニ屬スヘシ

第二十二條 本令第三章第七條ニ示シタル嫡子嫡孫ニ當タリタル者ト雖兄弟アリ祖父或ハ其父未嗣子或ハ承祖ノ孫ト認メサルキハ兵役ニ

就クヘシ

第二十三條 二三男ニタ子ナルトキハ檢査ノ上合格ノ者ヲ採用ス若二人共ニ合格スルキハ抽籤以前親ノ望ミニ任セ一人ヲ免スヘシ

第二十四條 兄弟ノ中陸海軍在役ノ者アレハ本人免役ハ勿論ナレ其兄弟若壯兵ニテ在役スルキハ之ヲ免サス

第二十五條 本令第三章常備兵免役概則ハ檢査前ノ規則ニ入營役ノ法ニ非ス是故ニ服役中ハ其个條ニ該ル事故出來スト雖一切之ヲ許サス然レモ現今兄或ハ家繼タルヘキ者死シ又ハ不療ノ疾ニ罹リ或ハ兩親又ハ祖父母老羸且貧

窮ニシテ他ニ依ルヘキ子ナク或ハ幼稚ニシテ在役中ノ者ヲ要スルニ非サレハ活計ノ路ナキ等止ムヲ得サル故障出來ノ者ハ戶長並ニ親族ノ証書ニ管應ノ與書証印ヲ以鎮臺ヘ願出ツルニ於テハ詮議ノ上現役ヲ免スト雖入營後六個月ヲ經生兵卒業ノ者ハ其服役年限中ハ後備軍ノ籍ニ編入スヘシ

第二十六條 本年徵兵連名簿進達期限乃毎年十月二十五日ヨリ翌年四月二十日迄ノ間ハ養子分家或ハ嗣子相續人等ノ出願ハ免役ノ爲詐偽ニ出ツルニ嫌アルヲ以右日限内ハ格別精密ニ取糺ノ事實明瞭止ムヲ得サル者ノ外ハ濫リ

ニ許可相成ラズ
但検査ノ節病氣事故等ニテ不參又ハ入營延期期ニテ翌年ノ徵兵ニ廻スヘキ者ハ則其時ヨリ翌年入營期限迄ニ養子分家等ヲ以免役願出ツル兵役ニ於テハ一切之ヲ許サス
第二十七條 本年徵兵連名簿記載ニ當ル者ノ内他府縣ヘ寄留ノ者ハ本令第六章第十三條ニ照準ニ其所置ニ及フヘキハ無論其戶主ナル者他縣ヘ寄留シ其子弟及ヒ厄介タル者ハ本令同章第十四條ニ準スヘキト雖其本貫ヨリモ豫有無ヲ取糺シ本籍ノ未ニ付シ其由ヲ記スヘシ
但北海道ヘ全戶寄留スル者ハ免役ニ屬シ北

海道ヨリ各府縣へ全戸寄留スル者ハ府縣一
 般ノ人民ト同ク兵役ヲ帶ハシムヘシ
 第二十八條 本令第六章第十二條ニ示シタル全
 國ノ男兒十七歲國民軍ニ入ラシムヘキハ其本
 年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ滿十七歲
 ト成ル者ヲ前年十六歲ノ十二月取調ヘ成丁簿
 ニ記シ府縣廳ニ備ヘ置キ而國民軍人員表離形
 ニ準シ十七歲ノ者幾人十八歲ノ者幾人ト順次
 四十歲ニ及ホシ之ヲ一大區又ハ一郡ニ括リ而
 又之ヲ一府縣ニ合セ翌年一月中ニ陸軍省ヘ差
 出スヘシ尤成丁簿ハ所用ノ節需メニ應シ差出
 タスヘキヲ以出入死没等之アルキハ必ス筆削

ヲ加ヘ置クヘシ

成丁簿離形

第何大區

以下朱字

姓 名	何 某	同	同	同	同	同	同
住 所	何小區何町何 丁目何番地	何小區何村何 番地	同	同	同	同	同
戶 主	何 某	同 人	同	同	同	同	同
誕 生	年 號 月 日	同	同	同	同	同	同
族 職 業	何 族	農	工	同	同	商	同
備 考							
姓 名							
住 所							

徵兵令

備考	族職業	誕生	戶主	住所	姓名	備考

成丁簿

何府縣

備考	族職業	誕生	戶主	住所	姓名	備考

國民軍人員表離形

何年何縣國民軍人員表

主任官姓名印

徵兵令

卅七歲	卅六歲	卅五歲	卅四歲	卅三歲	卅二歲	卅一歲	卅歲	廿九歲	廿八歲	廿七歲

七七

廿六歲	廿五歲	廿四歲	廿三歲	廿二歲	廿一歲	廿歲	十九歲	十八歲	十七歲	年齡
										何大區
										全
										全
										全
										全
										全
										全
										全
										計

七六

總計	卅八歳	卅九歳	四十歳	計

第二十九條 成丁簿記載ノ内洋行修業或ハ他府縣へ寄留等現今不在ノ者ハ各自其由並ヒヨ出立年月等簿中備考へ詳細ニ書載セ又他府縣ヨリ寄留ノ者ハ其本貫並ヒヨ移住ノ歲月等右同様備考ニ記シ本簿ノ末ニ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題ヨ一纏メニ記載スヘシ

第三十條 陸軍ノ兵籍ニ入リタル者ト雖在郷中ハ其族屬ハ隨ヒ取扱フヘキハ固ヨリナレモ死没轉居處刑及ヒ脱走摠ヘテ身上ニ關スル事故アレハ常備兵ノ歸郷中ノ如キハ其時々後備軍ノ如キハ月末毎ニ其筋ヲ經テ所管ノ鎮臺へ届出スルヘシ

第三十一條 後備軍召集ノ旅費ハ各自住居ノ地ヨリ營所迄ノ里程ヲ算シ徵兵入費概則ニ照準シ一時其府縣ニテ立替ヘ渡シ追ツテ明細決算表ヲ以其鎮臺へ申出ツヘシ

第三十二條 本令及ヒ此編中ニ於テ管内ヲ出入スル者等ノ管内ハ各自管轄セラレシヨル府縣

徵兵令

内ト必得ハシ就キテハ他ノ府縣ト接シタル邊
界ニ住居シタル者其管外ニ出ツルヲ禁スルハ
ハ支障最多カルヘシ是故ニ此等ノ者ハ他管ト
雖一泊途程ノ所ハ自己管内ト見做シ往來スル
モ妨ケナシ

(參考) 明治八年十二月十七日
陸軍省第四百四十號達

徵兵令參考第十一條中別紙之通追加候條此旨相
達候事
別紙

徵兵令參考第十一條追加
翌年ニ廻スヘキ徵兵ハ鎮臺ニ於テ其人員ヲ每府

縣ニ區別シ入營延期翌年廻名簿ヲ製シ各自ノ求
故ヲ摘載シ引揚ノ割符ト共ニ本省ヘ差出其原簿
ヲ剛ルヘシ府縣ニ於テハ其年末ニ至リ徵兵連名
簿ニ準シ入營延期翌年廻名簿ヲ製シ徵兵諸名簿
ト同時ニ陸軍省ヘ差出シ置キ徵兵檢査期限ニ至
レハ檢査場ヘ召集スルヲ本年相當ノ徵兵ト異ナ
ルヲナシ最モ補充ヨリ常備ニ録上ケ入營延期ニ
ル者ノ扱モ亦之ニ同シ

(參考) 明治九年二月二日
陸軍省第十八號達

徵兵入費概則並ニ明治七年九月四日送第三千六
百八十五號徵兵入費明細表離形別冊之通改正候

條明治九年分ヨリ施行可致此旨相達候事

徵兵入費概則

第一條 徵兵議員並徵兵ニ附添區戸長等ノ旅費ハ等外三等ニ準シ一般旅費定則ノ通給與スヘ

但十里以上ノ端里數ハ一里以上六里未滿日當ノ半數六里以上全數ヲ給スヘ

第二條 徵兵ハ各自其住所ヨリ檢査場及抽籤場等ニ往復ノ旅費十里詰日當金二十四錢ヲ給シ若シ同地ニ滞在セシムルキハ日當金二十二錢ヲ給スヘシ

但近方往復及ヒ片道九年三月四日二里未滿

ハ旅費ヲ不給往復及ヒ片道九年三月四日二里以上六里未滿ハ日當三分ノ一八錢ヲ給シ

一泊スル時並ニ往復滿六里以上十一里未滿ハ一日ノ日當ヲ給スヘシ往復二里未滿ト雖

ハ日當三分ノ二總テ三十六町未滿ハ別捨ヘシ十六錢ヲ給ス

第三條 檢査場ヨリ直ニ抽籤場ニ至ル徵兵ハ甲乙丙ノ里程ヲ通計シ第二條ノ旅費ヲ給スヘシ

第四條 抽籤又ハ檢査場等ニ於テ自己ノ情實ヲ申立テ免除ニ屬スル者或ハ該官ノ調ヘ誤リヲ以テ除名スル者等ノ旅費並ニ滞在日當ハ給セ

第五條 徵兵其府縣管外ニ在ル營所ヘ入營ノ旅

費十里請日當金四十錢給スルノ尤近方二里以上六里未滿并達ヲ以追加内ノ營所ニ至ル旅費ハ第三條ニ準スヘシ

第六條 備醫ハ其術業ノ優劣ヲ以テ四等ニ分テ第一等一日金一圓第二等金七十五錢第三等金五拾錢第四等金三十三錢三厘ヲ給シ若シ軍醫ニ隨ヒ他郷ニ出ルトキハ等外三等ニ準シ旅費ヲ給スヘシ

第七條 筆生ハ記録ノ閑劇ニ因テ二等ニ分テ一日金三十三錢三厘及二十五錢ヲ給シ都合ニ因リ甲場ヨリ乙場ニ要スルトキハ備醫同様ノ旅費ヲ給スヘシ

第八條 用使ハ徵兵署ニ二人検査場ニ一人ヲ要ス尤檢丁三百人以上ハ一人ヲ増スヘシ右雇料トシテ一日金十二錢五厘ヲ給スヘシ

第九條 検査場ヲ社寺ニ設ルトキハ其廣狹ニ應ジ二等ニ分テ一日金五十錢及二十五錢ノ席料ヲ給スヘシ

第十條 徵兵署及検査場固有品ハ徵兵解署ノ上ハ其府縣ニ預リ若翌年ニ至リ自然毀傷アルトキハ修復ヲ加ラヘシ若又一時ノ假借ニテ辨給スル上キハ相當ノ借料ヲ給ス右修復料借料ハ需用明細表ニ記載スヘシ

第十一條 徵兵署并ニ各所検査場ニ於テ徵兵使

或ハ副使ヨリ定則外ノ物品ヲ要スルトキハ別表ヲ製シ其費用記載スヘシ

第十二條 入營ノ途中川雷雪支并病氣等ニテ延日スルトキハ其地區長或ハ兵長ノ証書及醫師ノ診斷書ヲ相添申立ヘシ若シ步行難相成宿駕ヲ要スルトキハ其地通運會社ノ人足賃受取証書ヲ相添ヘ申立ルトキハ詮議ノ上其滞在日當及賃金ヲ給スヘシ最廉價醫師ノ謝儀等ハ自辨スルヘシ

第十三條 右入費一時該府縣ニ於テ取換置キ明細表雛形ノ通記載シ徵兵署検査場諸費徵兵并議員付添兵長等ノ旅費備醫筆生用使ノ雇給等ハ各表中合金高ヘ徵兵使ノ檢印ヲ取リ入營ノ旅費ハ到着スル鎮臺或ハ營所會計官ノ檢印ヲ取リ毎年六月三十日限リ無遅々陸軍省ヘ差出スヘシ

徵兵署及檢査場物品表

固	徵兵署	品目	員數	保存期限	固	檢査場	品目	員數	保存期限
人形檢査表	二	脚	十五年	固	身軀度尺	一	個	五年	
テール	二	脚	十五年	固	襪	一	個	五年	
椅子	十二	脚	同	固	テール	二	脚	十五年	
墨砚箱	六	面	同	固	椅子	八	脚	同	
朱砚箱	二	面	同	固	墨砚箱	三	面	同	
小火鉢	六	箇	期限ナシ	固	朱砚箱	二	面	同	
朱肉入	一	箇	同	固	朱肉入	一	箇	期限ナシ	
水入	三	箇	同	固	小火鉢	三	箇	同	
糊入	三	箇	同	固	水入	五	箇	同	
狀刺	四	箇	同	固	糊入	二	箇	同	
茶器具	一	式	同	固	狀刺	二	箇	同	

徵兵令

備考	品目	消耗	品	品目	消耗	品
一、固用品、保存年数、各品物ノ精粗ニ従テ異ナルアリトモ、正誤ノ在期ヲ立テ其長短ハ、是ヲ實際ニ據ルニ依リテ、消耗品ノ總額ヲ算シ、其ノ中、消耗品ノ總額ノ百分之五十以上ヲ全額ニシテ、消耗品ノ總額ノ百分之五十以下ヲ半額ニシテ、計算ス。	茶	一日分十双	徵兵百人額	炭	一日分十双	徵兵百人額
	炭	一日小火鉢一箇 湯濾灰五十目	二十枚	筆	二挺	五十枚
	筆	二挺	同大野紙十五枚	墨	三挺	同大野紙十五枚
	朱墨	同	同大野紙十五枚	朱墨	同上	同大野紙十五枚
	鐵簿	六挺	同大野紙十五枚	鐵簿	同上	同大野紙十五枚
	西ノ内紙		同大野紙十五枚	西ノ内紙		同大野紙十五枚
	半紙		同大野紙十五枚	半紙		同大野紙十五枚
	筆算表檢簿		同大野紙十五枚	筆算表檢簿		同大野紙十五枚
	茶器具		同大野紙十五枚	茶器具		同大野紙十五枚
	水手桶		同大野紙十五枚	水手桶		同大野紙十五枚
	手洗桶		同大野紙十五枚	手洗桶		同大野紙十五枚

明治何歲何府縣管下徵兵入費摺括表

合金

内譯

任官姓名印

内國旅費

金

諸備給

金

需用費

金

運送費

金

雜費

金

右之通相違無之候也

年号月日

長官印

九〇

明治何歲徵兵旅費明細表

合金

内譯

任官姓名印

陸地

徵兵費

日

里數

日帶數

金員

人員

往返五里未滿一泊

三分一

往返五里

半數

金四十四匁

全一人

往返六里以上十里未滿

一日

往返六里以上十里未滿

一日

金四十匁

全一人

往返七里以上十二里未滿

往後三日

往後三日

全

金三十四匁

全一人

往返八里以上十六里未滿

往後四日

往後四日

全

金二十四匁

全一人

往返九里以上二十里未滿

十五里

往後五日

全

金一十四匁

全一人

往返十里以上三十里未滿

巡回三日

巡回三日

全

金六匁

戶長一人

往返三十里以上六十里未滿

往後五日

往後五日

全

金八匁

兵徵一人

往返六十里以上

往後五日

往後五日

全

金八匁

兵徵一人

九一

徵兵令

管内在營 牙至往後 八管内日當 給スヘシ	第一區何小區某 村外何々村ヨリ	第二區何小區某 村外何々村ヨリ	第三區何小區某 村外何々村ヨリ	第四區何小區某 村外何々村ヨリ	第五區何小區某 村外何々村ヨリ	第六區何小區某 村外何々村ヨリ	第七區何小區某 村外何々村ヨリ	第八區何小區某 村外何々村ヨリ	第九區何小區某 村外何々村ヨリ	第十區何小區某 村外何々村ヨリ	第十一區何小區某 村外何々村ヨリ	第十二區何小區某 村外何々村ヨリ	第十三區何小區某 村外何々村ヨリ	第十四區何小區某 村外何々村ヨリ	第十五區何小區某 村外何々村ヨリ	第十六區何小區某 村外何々村ヨリ	第十七區何小區某 村外何々村ヨリ	第十八區何小區某 村外何々村ヨリ	第十九區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十一區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十二區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十三區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十四區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十五區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十六區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十七區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十八區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十九區何小區某 村外何々村ヨリ	第三十區何小區某 村外何々村ヨリ
	第一區何小區某 村外何々村ヨリ	第二區何小區某 村外何々村ヨリ	第三區何小區某 村外何々村ヨリ	第四區何小區某 村外何々村ヨリ	第五區何小區某 村外何々村ヨリ	第六區何小區某 村外何々村ヨリ	第七區何小區某 村外何々村ヨリ	第八區何小區某 村外何々村ヨリ	第九區何小區某 村外何々村ヨリ	第十區何小區某 村外何々村ヨリ	第十一區何小區某 村外何々村ヨリ	第十二區何小區某 村外何々村ヨリ	第十三區何小區某 村外何々村ヨリ	第十四區何小區某 村外何々村ヨリ	第十五區何小區某 村外何々村ヨリ	第十六區何小區某 村外何々村ヨリ	第十七區何小區某 村外何々村ヨリ	第十八區何小區某 村外何々村ヨリ	第十九區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十一區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十二區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十三區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十四區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十五區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十六區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十七區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十八區何小區某 村外何々村ヨリ	第二十九區何小區某 村外何々村ヨリ	第三十區何小區某 村外何々村ヨリ

管倉在比磨
町三至八ノ日
當八金二十四
錢ヲ給ス

考	備	程三里同町ヨリ某村徵兵署迄程七里 同町ヨリ某村迄程五里	某何大區何某某鎮臺(或)營 村外何某新ヨリ(所)迄	二日半 二十里以上十六里未滿	十五日 十六里以上二十里未滿 往後四日	往後三日 十一里以上十六里未滿 一日 往後六里以上十一里未滿	往後二里以上六里未滿 三分ノ一	往後二里未滿一泊	金十六錢 全一人	金二十四錢 全一人	金四十錢 全一人	金九十四錢 全一人	金五十八錢 全一人	金一圓 全一人
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全一人	全一人	全一人	全一人	全一人	全一人

表中一人毎金額ヲ掲、並同里程ノ部ハ區畫ニ併テ記載スヘシ、亦入營旅費ハ別表ニ撰スヘシ、從前入營旅費表在、町附添戸長ノ捺印セシ向看之候處右附添之、長明細表ヲ撰、主任ノ官姓名ノ、ヲ記シ別帳ニ戸長自印ノ上鎮臺或ハ營所ニ差出シ共會計官ノ捺印ヲ請テ而シテ歸縣ノ上主任ノ官捺印ノ手續ニスヘシ

明治何歲徵兵檢査諸備給明細表

合金

任主 官姓名印

外譯

名稱	日給	人員	延日數	小計
備醫	金何程	何名	何日	金何程
〔朱書〕 何月何日ヨリ何月何日迄備入				
筆生	全	全	全	
〔朱書〕 全				
用使	全	全	全	
〔朱書〕 全				

明治何歲徵兵檢查雜費明細表

合金

內譯

任官姓名印

地名	日額	小計
何國第何大區何小區 何村檢査場	金何程	金何程
全徵査署	全	全

朱書

何月何日ヨリ何日マテ某家借入

明治何歲徵兵檢查需用費明細表

合金

內譯

任官姓名印

品目	員數	代價通計
筆	何本	金何程
墨	何挺	
紙	何帖	
札	何脚	
板木彫刻	何枚	
硯箱損料	何面	
椅子損料	何脚	
其他各種前條ニ因テ記載スヘシ		

明治何歲徵兵檢査運送費明細表

合金

內譯

任主官姓名印

何々品何國何村ヨリ 何町迄運送	何 個	金 何 程
夏 由	個 數	小 計

(參考) 明治九年三月廿九日大藏省
乙第三十三號ヲ以府縣へ達

徵兵入營以前ノ經費從前陸軍省ヨリ支給候分本
年七月以降ハ各府縣額外常費トシテ當省ヨリ相
渡候條此旨相達候事

但徵兵下調諸費ハ八年九月第百六拾九號公達ノ
通可心得事

(參考) 明治八年九月二十二日太政官
第百六十九號ヲ以テ府縣へ達

各府縣ニ於テ每歲徵兵連名簿同免役簿并ニ成丁
簿ノ調製等總テ徵兵下調ニ係ル諸費本年七月以
降ハ各廳定額常費ノ内ヲ以仕拂候儀ト可相心得
此旨相達候事

徵兵金

(參考) 明治九年十二月廿七日大藏省乙第九號ヲ以府縣へ達

徵兵入營以前ノ經費交付方ノ儀ニ付本年三月乙第三拾三號ヲ以テ相達候ニ付テハ同年二月陸軍省第三拾八號達ノ徵兵入費概則改正更ニ別冊ノ通相定候條自今右ニ照準可取計候尤受取方ノ儀ハ同年八月乙第六拾九號內務大藏兩省達ノ通可心得此旨相達候事

但本年七月以降補充兵入營以前入費既陸軍省達徵兵入費概則ニ照シ仕拂濟ノ分ハ其儘据置經費勘定帳へ編入可差出事

(參考) 明治十年四月四日陸軍省甲第十一號ヲ以鎮臺府縣へ達

本年徵募ノ常備兵入營期限ノ儀詮議ノ次第有之ニ付追テ日限相達候迄延期候條此旨相達候事
但補充兵ノ儀ニ本年ニ限リ追テ常備兵入營ノ日ヨリ定期ノ日數服役ト可相心得候事

(參考) 明治十年四月十七日陸軍省甲第十三號ヲ以府縣へ達

徵兵入費ノ儀明治十年ヨリ大藏省ニ於テ仕拂候ニ付右入費概則九年同省乙第九號達ノ通改正相成候ニ付テハ後備軍復習ノ爲召集及生徒旅費ノ儀別紙概則ニ照準シ繰替給與取計可申此旨相達候事

後備軍及生徒旅費概則

第一條 後備軍復習及非常召集ノモ、其他華士族平民諸學校及教導團生徒志願入校ノ旅費ハ十里詰金四十錢滞在日當金二十二錢ヲ給スヘシ

但十里以上ノ端里敷滿一里ヨリ一日分給スヘシ

第二條 其府縣管内ニ在ル營所ハ一日十里詰日當二拾四錢ヲ給スヘシ尤近傍ハ管内外ノ別ナク六里以上十里未滿ハ金二拾四錢滿五里ハ金拾二錢ヲ給スヘシ若シ一泊スルトキハ五里未滿ト雖モ金十六錢ヲ給スヘシ

(參考) 明治十年六月三日陸軍省甲第十五號ヲ以テ第一第二第五軍管々下府縣ニ達

本年徵兵ノ内五尺未滿及下士教導團生徒并近衛兵再役兵等ノ兄弟ニシテ檢査合格ノ者定例ニ從ヒ徵兵使ニテ解散申付且ツ右ニ付及指令候廉モ有之候ヘ共本年ノ儀ハ詮議ノ次第有之時宜ニヨリ再ヒ召集可致儀モ可有之候條豫テ服膺候様本入共ニ達方可取計此旨更ニ相達候事

(參考) 明治十年六月六日陸軍省甲第十七號ヲ以テ第一第二軍管々下府縣ニ達

本年徵兵身幹五尺未滿四尺九寸以上ノ者ハ徵兵卷參考第四條ノ例ニ準テ可取扱等ニ有之且又各兵下士ノ服役期限アル者并教導團生徒近衛兵及

レ再役兵等兄弟ニ至ル迄本年ノ儀ハ詮議ノ次第有之總テ服役申付候條此旨相達候事
但召集時日ノ儀ハ所管鎮臺ヨリ可相達候事

(參考) 明治十年六月七日陸軍省甲第十八號ヲ以第一第二軍管々下府縣へ達

七年徵兵ニシテ本年滿期第一後備軍へ編入スヘキ者ノ兄弟中本年徵兵相當ノ者ハ當時在役ノ兄弟退テ第一後備軍へ編入候マテ入營令延期候條此旨相達候事

(參考) 明治十年九月二十九日陸軍省甲第二十九號達

徵兵進名簿并人別表及檢査表中族職業認方ノ儀

是迄區々相成調査上不都合不揚候條右何レモ徵兵事務手續書第十七條中徵兵族職業表科目ニ準據シ土族農或ハ平民商等各自其族職業ヲ記註可致此旨相達候事

(參考) 明治十年九月十八日陸軍省甲第二十八號ヲ以鎮臺府縣へ達

常備並補充兵服役中分家或ハ家名相續等願出ノ者其趣意兵役免除ヲ願フニ非ス戸主ノ名義ヲ得ルニ止ル者ハ徵兵令參考第五十一條ニ準テ取扱不苦候條此旨相達候事

(參考) 明治九年三月廿七日內務省乙第四十一號ヲ以東京ヲ除府縣へ達

徵兵令

明治八年乙第百六十八號ヲ以テ巡查召募規則等
相達置候處從前地方ニ於テ巡查申付置候者ト雖
モ徵兵相當ノ者ハ右規則ニ照シ候儀ト可相心得
此旨更ニ相達候事

(參考) 明治九年八月卅一日東京府乙
第五十二號ヲ以テ區戶長ニ達

今般陸軍省ヨリ別紙ノ通達有之候ニ付テハ本年
八月府廳乙第五十號ヲ以達置候來明治十年徵兵
調个條ノ内第壹條左ノ通改正候條此旨相達候事
一安政三辰年二月十六日ヨリ同四巳年二月末
日ニテ出生ノ者召募

別紙

達第百三十號

徵兵令參考第十七條中第二式年齡計算表別
表ノ通改正候條此旨相達候事

但安政三丙辰年二月十六日ヨリ同月末日
迄出生ノ者ハ來明治十年徵募ニ令應候儀
ト可相心得候事

(別表)

徵兵令參考

第二式 年齡計算表

但此表明治十年ヲ以標目トス

徵兵令

已同 年四	年辰三改安												生ノ年月	明治九年一月	至明治十年一月 計年算
	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	正	二			
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	十九年十一月	二十年十一月	
者ノ載記簿名連兵徴	者キハス募徴年十治明											十九年十一月	二十年十一月		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	一ヶ月	一ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二ヶ月	二ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三ヶ月	三ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四ヶ月	四ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五ヶ月	五ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六ヶ月	六ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七ヶ月	七ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八ヶ月	八ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九ヶ月	九ヶ月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十ヶ月	十ヶ月	

(参考) 明治九年八月十七日東京府乙
第五十號ヲ以テ區戸長ヘ達

來ル明治十年徴兵取調ノ儀左ノ个條ノ通精々念
入不注意無之様迅速着手可致此旨相達候事

一安政三年二月十六日ヨリ出生ノ者召募
一同四巳年二月十五日マテ

一身幹尺度ハ四尺九寸ヨリ以上連名簿ヘ記載
其以下ハ免役簿ヘ記載可致事

一連名簿書式ハ参考改訂第十七條ニ照準シ族ハ
勿論職業書加ヘ可申事

一他府縣ヨリ全戸寄留ノ内適齡ノ者遺漏無之様
取調可申單身寄留ノ者ハ於本貫服役相成候儀
ニ付醫ヘ志願ヲリトモ書上ニ不及候事

一他府縣ヘ全戸寄留ノ内適齡ノ者ハ参考改訂第
二十七條末文ノ通ニ付連名簿ヘ記載不致別帳

徴兵令

- 一 可差出事
- 一 適齡ノ者單身ニテ他府縣へ出稼又ハ旅行寄留ノ者ハ呼戻方當廳ヨリ其管廳へ掛合可申間連名簿へ記載ノ上猶別帳相仕立可差出事
- 一 免役簿ハ二通り可相仕立尤所用ノ罫紙可下渡間受取ノ者可差出事
- 一 但一枚十六人ノ割
- 一 諸學校訓導授業生並生徒ノ儀本年四月改正參考第二十條ノ通ニ付不審ノ廉ハ可伺出事
- 一 各區ニ於テ徵兵下檢査ノ節議官出張爲致候條當十月下旬ヲ以日割並其場所取極可申出事
- 一 連名免役兩名簿トモ徵兵令改訂第六章第十三

條ノ通りニ候處各區ヨリ差出方兎角遅延相成夫カ爲メ陸軍省へ送達期日則十二月廿五日迄調査ノ間合無之不都合ニ候條規則ノ通十一月三十日限り必ラス可差出事

(參考) 明治九年九月十二日東京府乙第五十三號ヲ以テ區戸長へ達

後備軍兵員之内養子願出候者許可ヲ得候上ハ其者新住地ノ大小區及ヒ養家ノ戸籍ハ勿論氏神宗門ニ至ル迄無洩取調區戸長連署當府駐在官へ宛タル届書二通り作り新住地ヨリ府廳へ可差出此旨相達候事

但養子ニ限ラズ後備軍人戸籍面ニ變換有之明

細連名簿ニ加除スベキ分ハ都テ本文ニ準シ届書可差出事

(参考) 明治九年十一月三十日東京府乙第八十二號ヲ以テ區戸長ヘ達

今般陸軍省達第百九十三號ヲ以テ徵兵令參考中改正云々別紙ノ通被達候ニ付爲心得此旨相達候事

徵兵令參考中別紙ノ通改正候條此旨相達候事

徵兵令參考改正

第十四條 本年常備補充ノ命ヲ蒙リテ營以前若シ過テ陸軍ノ番號割符ヲ誤毀遺失スル時ハ其

越速ニ管廳ヘ届出管廳ニ於テ篤ト事由ヲ取糺シ全ク過失ニ係ルハ直ニ所管鎮臺ヘ移文シ糺製ヲ請フヘシ尤途中或ハ營所外滞在中ニ在ル時ハ附添區長或ハ戸長ニ於テ其事由ヲ詳ニシ直ニ鎮臺或ハ其營所ヘ上文ノ手續ヲナスヘシ第十七條 本令第六章第十三條ニ示シタル毎年十二月廿五日限り本省ヘ送達ノ徵兵連名簿ハ府縣款名ノ罫紙ニ第一式ノ如ク認メ年齡計算ハ第二式表面ニ揭示シタル如ク徵募ニ應スヘキ年ノ一月ニ至リ二十一歳未満二十歳以上ニ相當スル者ヲ其生年ニ遡リ取調フヘク最免役ニ適スル者ハ云々

徵兵令

(參考) 明治九年十一月廿二日東京府甲第百卅六號布達

壬申九月海軍省乙第百二十七號ヲ以海軍兵員徵募規則布達相成候處詮議ノ次第有之今般限リ右規則ニ拘ラス別紙表面ニ據リ水兵百名橫濱東海鎮守府ニ於テ檢査ノ上徵募候旨同省ヨリ通達有之候條志願ノ者ハ來ル十二月十八日限リ別紙書式ノ願書三通可差出此旨布達候事
但檢査日限ハ追テ可相違候事

一今般水兵百名檢査ノ上七ヶ年期ヲ以徵募ス入籍志願ノ者ハ左ノ離形ノ願書二通東京府ニ差出シ該府之レニ與書シ橫濱東海鎮守府ニ差出

スヘシ

但軍律戒役以上及ヒ常律懲役一年以上ノ刑

ニ處セラレヌル者ハ入籍ヲ許サス

願書案 料紙美濃紙二ツ折

何府何大區何小區何國何郡何村何番地

華士族平民

何某長二三男取ハ戶主又ハ何々

何 某

何年何月何日於何國何郡何町村生

何年何月何々年何々月

現宿所東京府何大區何小區何村何番地寄留或ハ何某同居

右ノ者水兵志願ニ付御檢査ノ上七ヶ年期ニ御採用相成候様其筋ニ御申立被下度此段奉願候也

徵兵命

東京府下何大區何小區何町何番地

華士族平民

父或ハ伯叔父兄弟親族又ハ後見人等

明治何年何月何日 願人 何 某 印

右區戶長 何 某 印

東京府知事何某殿

前書ノ通願出候條御檢査ノ上御採用相成度候也

明治九年何月何日 東京府知事何某印

東海鎮守府司令長官

海軍少將伊東祐磨殿

一右志願ノ者ハ身體健康旨語明瞭ノ者ナルヘシ

一年齡ハ滿十七歲以上二十五歲以下ナルヘシ

但是迄軍艦或ハ西洋形ノ汽船及ヒ帆船ニ乘

組タル者ハ醫官檢査ノ上合格ノ者ニ限り年

齡ニ不拘採用ス可シ

一入籍許可ヲ得ル者ハ家族明細書ニ戶長ノ奥印

ヲ受ケ差出スヘシ

一入營後三ケ年間ハ父母ノ病氣其他何様ノ事故

アリトモ歸省ヲ許サス

一家族アルモノハ入營ノ日ヨリ家族扶助金トシ

テ一个月金一圓七十五錢宛支給スヘシ

一勤仕中精勤ニシテ業務熟達ノ者ハ下等仕官ニ

昇級セシムヘシ

(參考) 明治二十年一月十二日東京府
乙 第十二號ヲ以テ區戶長へ達

明治九年二月陸軍省達徴兵入費概則別紙ノ通改定
相成候旨大藏省ヨリ達有之候條爲心得此旨相達
候事

徴兵入費概則

第一條 入營ノ節徴兵ニ附添區戶長等ノ旅費ハ
一般旅費定則ヲ以旅費等級五等ヲ給スヘシ
但徴兵議員并徴兵ニ附属區戶長檢査場及抽
籤場等へ往復スル旅費ハ官ヨリ給セサルヘ
シ

第二條 徴兵ハ各自其住所ヨリ檢査場及抽籤場

等へ往復ノ旅費十里詰日當金二十四錢ヲ給
若シ同地ニ滞在セシムル時ハ日當金二十二錢
ヨリ多カラサル金額ヲ適宜支給スヘシ

但近方片道三里未滿ハ旅費ヲ不給三里以上
六里未滿ハ日當ノ半數六里以上十一里未滿
ハ一日ノ日當ヲ給ス三里未滿ト雖モ一泊セ
テ十六錢 十里以外ノ端里數ハ一里以上六里
未滿ハ日當ノ半數六里以上ハ全數ヲ給スヘ
シ 總テ一里未滿
ハ別捨ヘシ

第三條 檢査場ヨリ直チニ抽籤場ニ至ル徴兵ハ
甲乙内ノ里程ヲ通計シ第二條ノ旅費ヲ給スヘ
シ

第四條 抽籤又ハ検査場等ニ於テ自己ノ情實ヲ申立テ免除ニ属スル者ノ旅費並ニ滞在日當ハ給セス

第五條 徵兵其府縣管外ニ在ル營所へ入營ノ旅費ハ十里詰日當金四十錢ヲ給スヘシ尤近方三里以上六里未滿並滞在日當及管内ノ營所ニ至ル旅費ハ第二條ニ準スヘシ

第六條 備醫ハ其術業ノ優劣ヲ以テ四等ニ分テ第一等一日金一圓第二等金七十五錢第三等金五十錢第四等金三十錢ヲ給シ若シ軍醫ニ隨ヒ他郷ニ出ル時ハ第一條ニ準シ旅費ヲ給スヘシ
第七條 筆生ハ記録ノ開劇ニ因テ一日金三十錢

ヨリ多カラサルノ給料ヲ以テ適宜支給シ都合ニ因リ甲場ヨリ乙場ニ要スル時ハ第一條ニ準シ旅費ヲ給スヘシ

第八條 用使ハ徵兵署ニ二人検査場ニ一人ヲ要ス尤檢丁三百人以上ハ一人ヲ増スヘシ右雇料トシテ一日金拾二錢五厘ヨリ多カラサルノ金員ヲ適宜給スヘシ

第九條 検査場ヲ社寺ニ設クル時ハ其廣狹ニ應ジ一日金五拾錢ヨリ多カラサルノ席料ヲ適宜給スヘシ

第十條 徵兵署及検査場固有品ハ別紙物品表ノ通相心得徵兵解署ノ上ハ其府縣ニ預リ若翌年

徵兵令

ニ至リ自然毀傷アル時ハ修葺ヲ加フヘシ若又
一時ノ假借ニテ辨給スル時ハ相當借料ヲ給ス
ヘシ

第十一條 徵兵署并ニ各所檢査場ニ於テ徵兵使
或ハ副使ヨリ定則外ノ物品ヲ要スル時ハ其旨
明細表備考ニ記載スヘシ

第十二條 徵兵入營及檢査抽籤場途中川留雪支
病氣等ニテ延滞ノ節ハ其所戶長ノ証書及醫師
ノ診斷書アルモノハ増日數ノ分滞留當日ヲ給
ス且疾病足痛等ニテ歩行難相成モノハ醫師ノ
診斷書及ヒ其地通運會社ノ受取証書ヲ添テ申
出ル時ハ車駕賃ヲ給スヘシ尤藥種料醫師ノ謝

儀等ハ自辨タルベシ

第十三條 右入費勘定仕上ハ該年度經費勘定帳
額外常費徵兵署ノ一大科目ヲ設ケ小科目ハ本
年十月乙第九十號當府達ニ照準シ勘定帳明細表
共明治八年八月第百五十號公達ノ通相心得調成
スヘシ

第十四條 前條ノ通定ムルト雖モ各廳ノ便宜ニ
ヨリ此概則ニ基キ金額適宜減少ノ方法ヲ設ク
ルハ苦シカラス

(參考) 明治十年二月二日東京府乙
第十五號ヲ以區戶長ヘ達

徵兵事務手續書別紙ノ通追加及ヒ改正候旨陸軍

徵兵令

省ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事

徵兵事務手續書追加

一 徵兵使拜命ノ後ハ其軍管下ニ於テ本年徵募スヘキ常備補充ノ定員其他府縣ノ徵兵署并ニ各所檢査場及ヒ各所徵員且廳下ヨリ各檢査場ヘノ里程書等第一條ニ示シタル徵兵諸名簿ト同時ニ之ヲ受領スヘシ

但巡回中徵兵署或ハ檢査場等該府縣ノ都合ニヨリ臨時廢設セシコトヲ照會アルトキハ之ヲ變換スルモ妨ケナシ

一 徵員中五尺未滿四尺九寸以上ノ者ハ參考第四條及ヒ第四十七條ニ準シ後日召集ノ便宜ヲ要スル爲メ適寸ノ者ト同時ニ檢査シ合格ノ者ハ抽籤セシメ各自番號ヲ定メ置クヘシ

一 一軍管內府縣ニ於テ常備補充ノ定員充實シ落籤并五尺未滿四尺九寸以上ノ者ヲ要セサルトキハ直チニ其趣ヲ府縣ニ通報シ之ヲ解散セシムヘシ然レトモ若シ定額ニ缺員ヲ生スルハ第十三條ニ準シ其年四月二十日以内ニ於テ先ツ落籤ノ者アル府縣ヲ平均シ落籤番號順序ニ之ヲ補ヒ尙不足スルキハ五尺未滿四尺九寸以上ノ者アル府縣ヲ平均シ番號順序ニ服役セシムヘシ

一 參考第九條ニ當リ兵役志願ノ者ハ篤ト願意ヲ

徵兵令

取札不都合ナキ上ハ之ヲ検査合格ノ者ハ
 聞届ケ常備番號以内ノ籤ヲ抽カレムヘシ
 一巡回中左ノ條件ニ付キ實際目撃スル所ノ景況
 ナ詳細ニ記載セ第十七條ニ示セタル徵兵書ト
 共ニ本署へ上申スヘシ

- 第一 地方官徵兵事務ニ熟否ノ程度
- 第二 徵兵體質ノ善惡
- 第三 兵役志願ノ者ノ數
- 第四 徵兵事務上ニ於テ將來更正等ヲ要ス
ヘキ意見
- 一凡テ徵兵ノ諸願書ハ該府縣徵兵署宛ニ正副
二通ヲ出サシノ一通ハ徵兵使ノ後証トナシ一

通ハ該署ニ於テ指令ヲナシ木人へ下附スヘシ
 一徵兵一切ノ書類ハ本使或ハ代理副使ノ名ヲ以
 テ之ヲ本省へ進呈スヘシ
 徵兵事務手續書改正

- 第一條 第一行「日」ヲ「後」トス
- 第五條 検査事務約束第一中「連名簿」ヲ「諸名簿」ト
ス
- 第十條 議員証書中常備ノ下當籤ノ上ニ補充ノ
二字ヲ加フ
- 第十一條 左ノ但書ヲ加フ
但落籤並ニ五尺未滿四尺九寸以上ノ者ヲ區
別シ番號順序ニ姓名ヲ記載セタル名簿一部

徵兵令

作ルニ

第十七條 徵兵書類目錄中籤簿ノ項ヲ削リ左ノ

三項ヲ加フ

- 一 第何軍管徵兵族并職業表
- 一 第何軍管徵兵身幹度尺表
- 一 第何軍管徵兵讀算試驗等級表

(參考) 明治十年二月五日東京府乙
第十六號ヲ以區戶長ニ達

徵兵令參考別紙ノ通り追加及ヒ改正相成候旨陸
軍省ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事

徵兵令參考追加

第三十三條 附籍主ハ尋常戶主ト其權利同キナ
以テ本令三章第六條ニ準シ免役ニ屬スヘシ然
レ共其嗣子并ニ同籍中ニ在テ徵兵ニ相當スル
者ハ凡テ徵募ニ應スヘシ

第三十四條 本令第三章第八條ニ示シタル獨孫
ハ祖父戶主ニシテ其子獨嗣子ノ地位ニ在ル者
ノ獨子ニテ家ノ血統共一人ニ存スル者ヲ免役

ト定メタル儀ニシテ他ヨリ貰ヒ受ケタル孫又ハ他家へ縁付キタル兄弟姉妹アル者ハ假令獨孫ニ相當スル者ト雖モ凡テ徵募ニ應スヘシ

第三十五條 戶主タル者實子ナシ或ハ實子不具廢疾等ニテ家事ヲ經營シ難シ叔伯弟甥等ヲ以テ相續人ト定メタル者ハ本令第三章第七條ニ準シ免役ニ屬スヘシ

第三十六條 本令第三章第十條ノ父兄ニ代リ家ヲ治ムル者ハ父及ヒ兄或ハ兄存在スレ共廢疾又ハ失踪後三十六个月以上ヲ經過シ徵兵相當ノ者ヲ要セサルハ顯然家事ヲ經營シ難キ者トシ尤戶主幼弱ナルヨリ同戶籍中ノ叔伯甥

等ノ從來家事ヲ擔理スル者ニシテ之ヲ要セサルハ忽チ活計ノ路ヲ失スル者ハ同區或ハ隣區ノ徵兵三人ノ戶主タル者ニ其事實ヲ証セシメ其管應ニ願出ルニ於テハ同條ニ準シ之ヲ免スヘシ

但父兄失踪後未ダ三十六ヶ月ヲ經過セサル者ト雖モ其管應ニ於テ已ムヲ得サル事實明瞭ニシテ詐偽ニ嫌無キ者ト見認ル時ハ陸軍省へ具狀シ許可ヲ乞フ可シ

第三十七條 常備兵在役中死没又ハ公務中ニ傷疾ヲ受ケ或ハ陸海軍服役ニ起因シタル疾病等ノ故ヲ以テ退役セシ者ノ服役年限内ニ在テ其

兄弟ナル者徵兵ニ相當スル時ハ本令第三章第
十一條ニ準シ免役ニ屬スヘシ

第三十八條 本令第五章第五條ニ準シ一府縣内
常備補充ノ徵員ニ剩餘アル時ハ之ヲ落籤トナ
スヲ例トスト雖モ若シ他府縣ノ徵員ニ不足ア
ル時ハ其落籤番號順序ニ之ヲ採用スルハ勿論
タルヲ以テ本年四月二十日迄ノ間養子分家其
他嗣子相續人ノ出願又ハ出稼等ノ者ハ差止メ
置シヘシ尤同日迄ニ採用ノ命ナキ時ハ即兵丁
ノ列ヲ免レタル者ト心得ヘシ

第三十九條 本令第四章第三條ニ當リ體格検査
ノ上不合格ノ者ハ即除役ニ屬スヘキ者ト雖モ

若シ其年一般ノ徵員寡少ニシテ徵募定額不足
シ軍隊編成ニ支障アル時ハ再検査ヲ遂ケ之ヲ
充實セシムルコトアルヘシ

第四十條 本年常備缺員ヲ補フ爲メ補充兵ノ入
營ヲ要スルキハ其鎮臺ニ於テ本年常備兵ノ缺
員ニセシメ名簿相添ヘ陸軍省ヘ届出ツヘシ
但補充兵服役中常備志願ノ者ハ其親或ハ兄
叔伯凡テ戸主タル者會得ニテ區長戸長証印
ノ上管應ヲ經テ其鎮臺ヘ願出ツルニ於テハ
番號ノ順序ニ拘ハラヌ本文同時ニ之ヲ入營
セシムルヘシ

第四十一條 前條ノ如ク鎮臺ニ於テ補充兵ヲ召

集スルニ若シ甲軍管内ノ補充ヲ以常備缺員ヲ
補フニ足ラサルキハ之ニ近接セル乙軍管ノ補
充ヲ以テシ乙亦足ラサルキハ丙ニ及ボシ交互
補缺シ定員ヲ充實スヘキヲ以テ之ヲ陸軍省ヘ
申立ヘシ

第四十二條 常備新兵ハ本令第六章第一條ニ準
シ四月二十日ヨリ五月一日迄ニ入營セシムル
ヲ以テ各自入營ノ時日ニ不同アリト雖モ服役
年期ノ計算ハ其入營シタル年ノ四月二十日ヨ
リ之ヲ起算スヘシ

第四十三條 常備軍滿期ニシテ第一後備軍ニ入
ル者ハ四月二十日ヨリ五月一日迄ニ入營セシ

ハヘシ尤服役年期ノ計算ハ前條ノ例ニ同シ
第四十四條 本令第六章第四條ニ準シ常備軍服
役在營中其身元轉居スルキハ其父兄或ハ親族
ノ者ヨリ直ニ本人ヘ通報シ本人ヨリ自己所屬
ノ下士ヘ届出ルニ於テハ下士ヨリ其筋ヲ經テ
本臺ヘ届出テ本臺ヨリ定規ノ通り陸軍省ヘ報
告スヘシ

但補充兵服役中其身元轉居スルキハ本令第
六章第九條中第一式ノ例ニ準シ届出ツヘシ
第四十五條 徵兵適齡ノ者ハ本令第六章第十三
條ニ準シ毎年各府縣ニ於テ調査シ粗漏ナキハ
勿論ト雖モ若シ戸籍上生年月日ノ記載誤リ又

ハ銘々ヨリ届出サレ者アリテ他日發露スルト
キハ其失錯セシ者ハ管廳ニ於テ相當處分ヲ脱
漏セシ丁壯ハ其年進達スヘキ徵兵名簿ノ册尾
ニ事由ヲ詳記シ差出スヘシ

第四十六條 毎年徵兵名簿進達後徵兵使巡行迄
ニ死没犯罪或ハ第二十六條ニ準シ已ムヲ得カ
ル養子分家又ハ嗣子相續人等ノ出願ヲ管廳ニ
於テ許可セシ者其他名簿上ニ異動ヲ生スルト
キハ凡テ該廳ニ取纏メ置キ同使巡回ノ節届出
ツヘシ

第四十七條 徵兵ノ身幹五尺未滿四尺九寸以上
ノ者ト雖モ第四條ノ例ニ準シ之ヲ採用スルコ

徵兵令

トアルヲ以テ尋常適寸ノ者ト同様徵兵進名簿
ニ記載シ検査呼集ニ應セシムヘシ
但五尺未滿四尺九寸以上ノ者検査呼出ノ時
ニ當リ出席セサル者又ハ入營延期ノ者ノ扱
ハ尋常翌年廻徵兵ト異ナルコトナシ尤翌年
ノ徵兵ハ適寸ノ者ニテ充實シ五尺未滿ノ者
ヲ要スルコトナキトキハ之ヲ解散セシムヘ
シ

第四十八條 第二十五條ニ當リ父兄等疾病ノ故
ヲ以テ免役願出ル者ハ其願書ニ左ノ第一式ノ
條件ヲ明瞭ニ記載シタル最寄地方醫師ノ診斷
書及ヒ第二式ノ家族書ヲ添ヘ同區或ハ隣區ノ

徵兵三人ノ戸主タル者ニ其事實ヲ証セシメ區長戸長與書証印ノ上其管廳ニ差出シ管廳先之ヲ駐在官ニ移シ駐在官ハ區長姓名ノ次ハ署名押印シ然ル後管廳ヨリ更ニ所管鎮臺ニ申立ツル上ハ其鎮臺病院東京ハ醫官ニ於テ診斷書ノ當否ヲ判定シ其趣ヲ別紙ニ記載調印セシメタル上願書ト共ニ陸軍省ニ差出シ何分ノ指令ニ應スヘシ

第一式 地方醫師診斷書雛形

府第何大區何小區何町住

姓 名

年齡何年何ヶ月

徵兵令

- 一體質
- 一病名
- 一原因
- 一症候
- 一經過
- 一處方
- 一豫後

右ノ通相違無御坐候也

府第何大區何小區何町何番地住

醫師 姓名 印

年號月日

第二式 家族書雛形

何府第何大區何小區何町何番地住

戶主 姓 名 年齡何年何ヶ月

父 某 年齡何年何ヶ月

母 某 年齡何年何ヶ月

祖父 某 年齡何年何ヶ月

祖母 某 年齡何年何ヶ月

長男 某 年齡何年何ヶ月

徵兵在役

次男 某 年齡何年何ヶ月

長女 某 年齡何年何ヶ月

次女 某 年齡何年何ヶ月

右ノ通相違無御座候也

何府第何大區何小區何町何番地住

年號月日

戶長 姓 名 印

區長 姓 名 印

第四十九條 第二十六章但書ニ示シタル翌年廻

ハ徵兵ノ中養子分家其他嗣子相續人等ノ出願
ハ故障ナシ何時ニテモ徵募ニ應スヘキ後証ナ

徵兵令

以テ區長戶長與書証印ノ上管廳へ願出ルトキハ該廳ニ於テ聞届ケ置キ例年徵兵名簿進達ノ節其事由ヲ記載シ陸軍省へ差出スヘシ

第五十條 前條翌年廻徵兵ノ中祖父死シ其孫嗣子トナリ又ハ戶主死シ其後繼タル者或ハ已ニテ得サル事故出來シ徵兵タル者ヲ要セサレハ忽チ一家ノ生計ニ關係スル者ノ如キ事情餘議ナキ者ハ同區或ハ隣區徵兵三人ノ戶主タル者ニ其事實ヲ証セシメ區長戶長與書証印ノ上管廳ヲ經テ陸軍省へ願出ルニ於テハ詮議ニ及フヘシ

第五十一條 常備并補充服役中養子約束ノミナ

爲サント欲スル者ハ養家ノ事故等ニテ一切苦情申立サル後証ヲ以テ其戶主タル者ヨリ區長戶長與書証印ノ上願出ルトキハ其管廳ニ於テ聞届ケ直ニ所管銃臺へ届出ツヘシ

第五十二條 毎年徵募スル常備補充ノ人員ハ本令附録中ニ揭示スト雖モ軍隊編成ノ都合ニ由リ若干ノ人員ヲ減省シ又ハ死没除隊其他近衛教導團等ニ拔擢スル者ノ缺員ヲ補フ爲之ヲ増補スルハ時宜ニ由ルヘシ

徵兵令參考改正

第九條 本令第三章中第六第七第八及ヒ第十一條ニ相當スル者ト雖モ兵役志願ノ者ハ服役中

一切苦情申立サル後証ヲ以テ其親或ハ兄叔伯
凡テ戸主ナル者(本人戸主ナレハ其親族)ノ願書
ニ區長戸長與書証印ノ上管廳ヲ經テ徵兵使へ
申立ツルコト於テハ之ヲ採用スヘシ

但年齢二十一歳以上二十四歳以下ニシテ兵
役ヲ志願スル者モ亦本文ノ例ニ準ス

第二十七條 本年徵兵連名簿記載ニ當ル者ノ内
他府縣へ寄留ノ者ハ本令第六章第十三條ニ照
準シ其處置ニ及フヘシ然レモ寄留地ニ於テ徵
募ニ就カント欲スル者ハ凡テ戸主ナル者ヨリ
其筋ヲ經テ本貫廳ニ願出テ許可ヲ得テ必ス其
年ノ九月一日迄ニ右許可ノ寫並寄留地ニ於テ

徵兵令

在役中身元引受人ノ証書相添へ更ニ本人ヨリ
寄留地區戸長ノ手ヲ經テ其管廳へ願出ツヘシ
尤双方管廳ニ於テハ篤ト取糺シノ上相違ナキ
時ハ聞届ケ本簿ノ末ニ附シ其事由ヲ詳細ニ記
スヘシ又其戸主ナル者他府縣へ寄留スル時其
子弟厄介タル者ハ本令同章第十四條ニ準スヘ
シト雖モ其本貫ヨリモ豫メ有無ヲ取糺シ本簿
ノ末ニ附シ其事由ヲ記スヘシ
但北海道ノ内未ダ徵兵ヲ行ハサル土地ニ單
身寄留スル者ハ其本貫ニ歸リ徵募ニ應ジ全
戸寄留スル者ハ免役ニ屬スヘシ又同地ヨリ
各府廳へ單身寄留スル者ハ免役ニ屬シ全戸

寄留スル者ハ府縣一般ノ人民ト同ク兵役ヲ
帶ハシムヘシ

(參考) 明治十年二月五日東京府乙
第十七號ヲ以テ區戶長ヘ達

今般徵兵事務手續書追加及ヒ改正相成候コ付テ
ハ本年連名簿記載ノ者ハ勿論七年以降徵募ノ内
事故有之本年廻シ相成候分共其職業取調左ノ離
形ニ照準來ル六月迄ニ無遅延當廳ヘ可差出此旨
相達候事

用紙半紙

記

本年徵兵連名簿書上ノ者

第何大區何小區

第長二三男

弟何之誰

獵師

舟夫

漁夫

雜業

大工

石工

火工

鐵工

草工

縫工

無職業

農

商

神官

僧侶

華族

士族

平民

同 何之誰

同

事故云々ニテ十年廻シノ者

同

何之誰

同

同

同

右區

戶長何之誰印

年月日

二四五

徵兵令

右業名ニ當ラサル者ハ雜業ト認ムヘシ

(參考) 明治十年二月廿二日東京府乙
第二十號ヲ以テ區戶長ヘ達

第二後備軍服役中管外ヘ寄留セント欲シ寄留地
並其事由詳細相認メ願出ル時ハ後備軍官員服務
概則第四則但書ニ準シ可取扱旨陸軍省ヨリ達有
之候條爲心得此旨相達候事

本月乙第十九號達本月三十日迄トアルハ廿八
日ノ誤リ

(參考) 明治十年五月十四日東京府乙
第四十六號ヲ以テ區戶長ヘ達

後備軍復習ノ爲召集並生徒旅費概則左ノ通陸軍

省ヨリ被相達候條爲心得此旨相達候事

別紙後備軍及生徒旅費概則

第一條 後備軍復習及非常召集ノモノ其他華士
族平民諸學校及教導團生徒志願入校ノ旅費ハ
十里詰金四十錢滞在日當金二十二錢ヲ給スヘ
シ

但十里以上ノ端里數滿一里ヨリ一日分給ス
ヘシ

第二條 其府縣管内ニ在ル營所ハ一日十里詰日
當二十四錢ヲ給スヘシ尤近傍ハ管内外ノ別ナ
シ六里以上十里未滿ハ金二十四錢滿五里ハ金
十二錢ヲ給スヘシ若シ一泊スルルハ五里未滿

ト雖此金十六錢ヲ給スヘシ

(參考) 明治十年五月廿四日東京府乙第四十九號ヲ以テ區戶長ヘ達

常備後備軍服役中轉居其他異狀屆之儀徵兵令第六章第四條第五條第九條第十一條ニ照準其都度可届出等之處兎角緩慢ニ打過候向間々有之夫カ爲メ復習召集等之際差支不勘而已ナラス成規ニ抵觸不都合ノ事ニ候條今後届洩等無之様注意イマシメ區内無洩可及示諭此旨相達候事

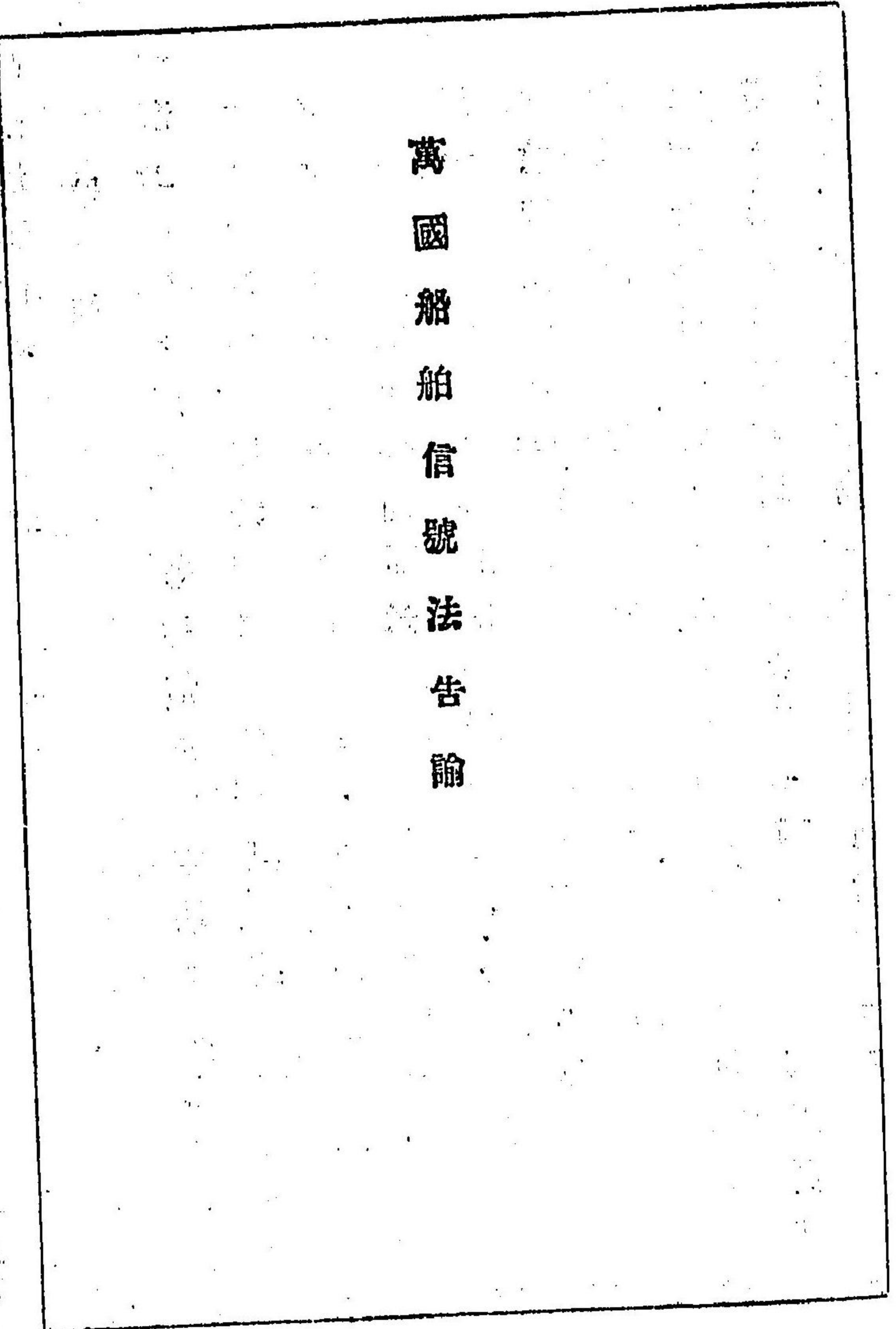
(參考) 明治十年六月八日東京府乙第五十六號ヲ以テ區戶長ヘ達

本年補充兵且徵兵身幹五尺未滿四尺九寸以上ノ

者並ニ各下士ノ服役期限アル者教導團生徒近衛兵及ヒ再役兵等ノ兄弟ニ至ル迄詮議ノ次第有之總テ召集相成候旨陸軍省ヨリ被達候條不都合無之様可取計此旨相達候事
但入營時日ハ退テ相達スヘシ

明治八年九月廿四日
太政官第四百四十四號布告

今般御國內西洋形蒸氣帆前船共普通信號貫用可致ニ付
テハ船名信號符字附點ノ儀并萬國船舶信號書及信號旗
共海軍省ニ於テ可頒布候條右船舶官有私有共別冊萬國
船舶信號法告諭第三條ニ照準シ其船証書相副同省ニ可
申出此旨布告候事



萬國船舶信號法告諭

萬國船舶信號法告諭

第一條

一海上ニ於テ用フル普通信號ノ方法ヲ設定スルノ緊要ナルハ歐米ノ諸海國之ヲ論ベシ既ニ英國政府ニ於テ「イソタルナシヨナル」コード、シヨナル」ヲ選定シ以テ刊行セタリ是ニ於テ佛蘭西米利堅奧國和蘭瑞典魯西亞希臘以宋利澳智利日耳曼西班牙葡萄牙巴西ノ如キ諸海國ノ政府ニ於テモ或ハ之ノヲ翻譯刊行シ以テ其軍艦商船及ヒ陸上信號場ニ於テ專ラ之ヲ用ヒシム因テ今我國海軍省ニ於テモ之ノヲ翻譯セシメ萬國船舶信號書ト題シ刊行シ以テ軍艦及ヒ西洋形ノ官船商船及ヒ燈臺ノ如キ信號場ニ於テ互ニ通信應答ヲ爲ス一般ノ

法トス故ニ此信號書ヲ備フルニ於テハ以後「マルニツト」氏著述ノ信號書ヲ備フルヲ要セス

第二條

一此信號法ハ素ヨリ艦船ノ保護及ヒ互ノ通信便利ヲ爲メニ設定セル者タルヲ以テ右諸海國一般ニ之ヲ用フルカ故ニ西洋形ノ船舶ヲ有スル諸省使府縣及ヒ船主ハ篤ク其意ヲ體シ其船舶ニ此信號書及ヒ信號旗ヲ備ヘ其船長及ヒ士官ヲ用方ヲ習熟セシメ又以後船長及ヒ士官ヲ選舉スル時ハ此者之ノヲ了解シタルヤ否ヲ詳細ニ検査スヘシ抑々此信號書ノ欠ク可カラサルコトハ既ニ外國ノ或ル信號場ニ於テ海上航行ノ船暗礁ニ觸レシトスルヲ看出シタルニ因リ直ニ其場ノ

士官萬國船信號旗ヲ掲ケ以テ其危險ノ事ヲ通知シ
タレドモ其船此信號ヲ了解ス可キ書ヲ有セカリシテ以
テ之レニ注意セズ遂ニ危難ニ罹リ破船沈没シタルノ
例往々許多アリ豈ニ鑑戒ト爲サ、ル可カラズヤ

第三條

船名信號符字願書ノ法

一 今般海軍省ニ於テ船名ヲ指示スル爲メニ必要ナル信
號符字ヲ授與セシム故ニ其信號符字ヲ請求スル者ハ
官船ニ於テハ其所轄廳ヨリ左ニ掲載セル甲ノ書式ニ
其船証書ヲ附シテ海軍省ニ出ス可ク商船ニ於テハ其
船主ヨリ乙ノ書式ニ其船証書ヲ附シ所轄廳ヲ經テ海
軍省ニ願出可ク然ル時ハ海軍省ニ於テ其信號符字ヲ

其船証書ノ表ニ記入シ授與ス可ク

甲ノ請求書式

營省(或ハ使府縣)所轄ノ漁船(或ハ帆船)何九信號符字點附
有之度別紙船証書相副此段及進達候也

明治 年 月 日

省使府縣長官印

海軍卿 某 殿

乙ノ願書々式

私所有ノ漁船(或ハ帆船)何九信號符字點附被下度別紙船
証書相副此段奉願候也

使府縣管下何大區何小區何町村何番地

華士族平民

何 某 印

明治 年 月 日

海軍卿 某 殿

前書之通願出候間此段申副候也

使府縣長官印

第四條

萬國船舶信號場 燈臺之レヲ管掌ス

一前條ノ如ク 我國信號場ニ於テモ唯萬國船舶信號法
而已ヲ用フルコトス然レハ此場ヲ通過スル内外ノ諸
船舶此信號法ヲ以テ其船名ヲ指示スル時ハ之レヲ新
聞中船舶報告ト題セル部ニ記載シ刊行シ以テ普ク世
上ニ報告ス可シ又船主ヨリ其航行セル船ニ急用ノ消
息等ヲ送ラントスル時ハ其船名或ハ信號字ニ附シテ
其要件ヲ記シ之レヲ電信或ハ郵便ヲ以テ地方ノ信號
場ニ送ル可シ然ル時ハ其信號場ニ於テ其船ヲ認メ次

第此信號法ヲ以テ之レニ通知シ而シ其船ヨリ其應答
ヲ要スル時ハ之レヲ船主ニ報ス可キトス

第五條

船名錄

一此船名錄ハ萬國船舶信號書ノ附錄ニシテ艦船ニ授與
セル信號符字ト艦名トヲ記載シ以テ陸上信號場及ヒ
軍艦官船商船ノ船長ヲシテ其相遇フ所ノ艦船ニ信號
ヲ爲シ及ヒ自己ノ船名ヲ通知スルノ便ニ供スル者ト
ス

第六條

一海軍省ニテ前月此信號符字ヲ授與セル船舶ノ名號ハ
發月ニ至リテ之レヲ集メ新聞紙中船舶報告ノ部ニ記

萬國船舶信號

載以テ世ニ公布シ諸船長ヲテ其船名及ヒ信號符
字ヲ知ラシムルニ供シ又毎年其前年中ノ分ヲ編集シ
船名録増補ト號シテ發行スヘシ

第七條

信號旗及ヒ信號書

一萬國船舶信號旗及ヒ信號書ハ海軍省ニ於テ完備ノ者
ヲ下附セシムルカ故ニ船主或ハ船長必ス之ノカ購求
ヲ願出ツ可シ

旗ノ寸方	旒ノ寸方
小ハ 豎四尺六寸 横六尺	豎三尺 横十一尺
中ハ 同五尺 同七尺	同四尺 同十三尺

大ハ 同六尺

同八尺

同五尺 同十五尺

但シ「マ」リ「エ」ツ「ト」氏ノ萬國海上信號旗一式ヲ有スル船
ニ於テハ其旗ノ中ヲ以テ多分此信號ノ用ニ充テ得可
ク唯 m q v w ノ旗ト信號示旒トノ五旗ヲ新調スルニ
於テハ其使用ヲ得可シ

第八條

海上士官ヲ望ム者ヲ檢査スルノ個條

一檢査ノ要目左ノ如シ

- 第一 此信號法ノ各綱領ヲ了解シ得ルヤノ事
- 第二 旗信號距離信號及ヒ端舟信號ヲ容易且敏捷ニ
爲シ及ヒ應答シ得可キヤノ事

萬國船舶信號

第三 電信局信號器ヲ以テ信號ヲ爲シ得可キヤノ事
 一 檢査トハ檢査官ノ有スル信號書及ヒ其離形ノ旗ヲ以
 テ士官ヨラソフヲ望ム者ヲシテ實地ノ施行ヲ爲サ
 メ試檢スル事ナリ

第九條

信號法

一 萬國船舶信號ニ用フル旗ハ十八個ト信號示號即チ回
 答旂一個トナリ

燕尾旂

一個

旂

四個

方旂

十三個

一 此十八旗ハbヨリw迄ノ子韻符ニ代用ス而シテ此旗ニ

個或ハ三個或ハ四個ヲ聯結シ掲クル時ハ諸語句或ハ
 文章ノ意ヲ表スル者トス
 一 此旂旂ノ種類ハ左ノ如シ

燕尾旂

b 紅ノ燕尾

旂

c 白地ニ紅丸

d 藍地ニ白丸

f 紅地ニ白丸

g 黃ト藍(豎)

方旂

h 白ト紅(豎)

萬國船舶信號

- j 藍ト白ト藍(堅)
- k 黃ト藍(堅)
- l 藍ト黃(四個ノ石疊)
- m 藍地ニ白ノ斜十字
- n 藍ト白(十六個ノ石疊)
- p 藍地ニ白方
- q 黃
- r 紅地ニ黃ノ正角十字
- s 白地ニ藍方
- t 紅ト白ト藍(堅)
- v 白地ニ紅ノ斜十字
- w 外郭藍中郭白心紅方

信號示旆即チ回旆旆 紅ト白ト堅條

一 此信號書ハ b c ヨリ始メテ f g m d ニ至ル迄ノ聯結ノ順次ヲ逐書シタルナリ故ニ信號ヲ爲サントスル其意思ノ文ヲ索メントコハ此順次ニ就テ見ル可シ

第一編

- ⊖ 信號ニテ爲シ得可キ諸般ノ通信及ヒ尋問ノ爲メニ緊要ナル語句及ヒ文章
- ⊖ 地理信號及ヒ數表但シ是レハ現今未ダ譯成ニ至ラス

第二編

- ⊖ 第一編ノ信號ノ類語集ニシテ第一編中ニ在ラサルモノハ伊呂波ノ順次ノ四旗信號ニテ

増補セリ而シ之ヲ前後ノ二部ニ分ツ即チ
 前部ハ原文ノ翻譯後部ハ我伊呂波ノ順次ヲ
 逐テ其事ノ種類ヲ區別シ編集セル者ナリ
 信號ヲ爲サントスル時ハ必ス此第二編ノ後
 部ニ就テ爲ス可シ然モ此二部其譯成編集共
 ニ未タ完備セサレハ假ニ伊呂波順次ノ看出
 目錄ヲ未附シ以テ第二編ノ代用ニ供ス故ニ
 此目錄ニ就テ第一編中ヲ索ム可キナリ

第三編

端舟信號距離信號電信局信號器信號及ヒ佛
 國葡萄牙及ヒ以太利ノ電信局信號器信號場
 及ヒ信號場ノ名錄ヲ記載セリ但シ佛國葡萄牙

牙、以太利ノ電信局信號器信號場等ノ名錄ハ
 現今未タ譯成ニ至ラス

第四編

衝突豫防規則暴風雨豫報信號溺者救法立弗
 布立ノ水路信號等ヲ記載セリ但シ立弗布立
 ノ水路信號ハ未タ譯成ニ至ラス

第五編

軍艦及ヒ船舶ノ名ヲ報知スル信號符字ヲ有
 スル者ノ船舶名錄集ナリ

一萬國船舶信號法ノ最モ稱揚ス可キ所ハ其簡易輕便ナ
 ルト區別分明ナルトコアリ

第十條

萬國船舶信號

信號方法

一此萬國船舶信號書ヲ以テ信號ヲ爲サント欲スル時ハ其以前ニ「ガ」ニ上ケル國旗ノ下ニ必ス信號示旗ヲ掲ケ置ク可シ

一信號示旗或ハc 旒或ハd 旒ヲ唯一個用フル時ハ左ノ意ヲ表ス

○ 信號示旗ハ回答旒ナリ

○ c 旒ハ 然リ

○ d 旒ハ 否

一右信號ヲ除クノ外總テノ信號ハ二旒或ハ三旒或ハ四旒ヲ以テ爲ス可ク而シテ信號ノ種類ハ最上ノ旒ヲ以テ之レヲ識別セム

○ 二旒信號

○ 燕尾最上ナルハ注意信號

○ 旒最上ナルハ方位信號

○ 方旗最上ナルハ緊急及ヒ危險信號

○ 三旒信號

○ 尋問通信經緯度及ヒ月日時等ノ如キ信號

○ 四旒信號

○ 燕尾最上ナルハ地理信號

○ c d 或ハf 旒ノ最上ナルハ綴字及ヒ語信號

○ g 旒最上ナルハ軍艦ノ名

○ 方旗最上ナルハ官船商船ノ名

明治八年三月

日本海軍艦名録

此信號ヲ上ル時ハ必ス國旗ノ下ニ信號示旆ヲ掲ク可ク

信號符字	艦名	砲數	信號符字	艦名	砲數
spbe	龍驤 <i>Ri-oo-jo.</i>	二	spbi	鳳翔 <i>Hoo-shyoo.</i>	四
spbd	東 <i>Azu-ma.</i>	三	spbm	第一卯 <i>Dai-iti Tei-bow.</i>	四
spbf	筑波 <i>Tsu-kuba.</i>	一一	spbn	富士山 <i>Fuji-yama.</i>	
spbh	日進 <i>Nis-sin.</i>	七	spbp	乾行 <i>Ken-kow.</i>	
spbj	春日 <i>Kas-ga.</i>	七	spbr	孟春 <i>Mow-shun.</i>	四
spbk	雲揚 <i>Woon-you.</i>	四	spbs	第二卯 <i>Dai-ni Tei-bow</i>	四

信號符字	艦名	砲數	信號符字	艦名	砲數
spbt	千代田形 <i>Chi-yo-da-gata</i>	三	spbo		
spbv	大坂 <i>O-saka.</i>		spbf		
spbw	快風 <i>Qui-foo.</i>		spbh		
spob	肇敏 <i>Chow-bin.</i>		spbj		
spod	蒼龍 <i>Sō-ryū.</i>		spbk		
spof	攝津 <i>Sets.</i>		spbi		
spoh	高雄 <i>Tai-o.</i>		spbm		
spoj	淺間 <i>Asa-ma.</i>		spbn		

萬國船舶信號

萬國船舶信號

信號符字	船名	官籍番號	所屬地	船主	噸數	馬力
h b e t						
h b e s						
b b e r						
h b e q						
h b e p						
h b e n						
h b e m						
h b e l						

日本船舶名錄

明治八年

此信號ヲ上クハ時ハ必ス國旗ノ下ニ信號示旆ヲ掲ク可シ

信號符字	船名	官籍番號	所屬地	船主	噸數	馬力
h b e k						
h b e j						
h b e g						
h b e f						
h b e d						

萬國船舶信號

信號符字	船名	官籍番號	所屬地	船主	噸數	馬力
h b d w						
h b d v						
h b d t						
h b d s						
h b d r						
h b d q						
h b d p						
h b d n						

信號符字	船名	官籍番號	所屬地	船主	噸數	馬力
h b d m						
h b d l						
h b d k						
h b d j						
h b d g						
h b d f						
h b d e						
h b c w						
h b c v						

萬國船舶信號

信號符字	船名	官籍番號	所屬地	船主	噸數	馬力
h b g d						
h b g c						
h b f w						
h b f v						
h b f t						
h b f s						
h b f r						
h b f q						

信號符字	船名	官籍番號	所屬地	船主	噸數	馬力
h b f p						
h b f n						
h b f m						
h b f l						
h b f k						
h b f j						
h b f g						
h b f d						
h b f c						

萬國船舶信號

信號符字	船名	官籍番號	所屬地	船名	噸數	馬力
hbjd						
hbje						
hb gw						
hb gv						
hbgt						
hbgs						

hbgr	hb gq	hb gp	hb gn	hb gm	hb gl	hb gk	hb gj	hb gf

(参考) 明治十年二月廿七日太
政官第二十四號布告

明治八年九月第百四拾四號ヲ以テ御國內西洋形船
舶普通信號等ノ儀及布告置候處今般右事務內務
省へ令管理候條右關係ノ儀ハ總テ同省へ可申出
此旨布告候事

明治十年八月十一日內務省乙
第七十二號ヲ以テ府縣へ達

當省七年甲第十八號達ニヨリ取調來候物産表ノ儀ハ
品類繁雜ニ涉リ地方ノ勞費ヲ増シ候ニ付今般更ニ改正
先ツ一般生産緊要ナル農産物ヲ撰ヒ種類節減表式例旨
別紙ノ通相定候條精々注意毎年翌三月限取調可差出此
旨相達候事

但シ昨九年分ハ此表式ニ拘ハラズ數量通價ノミ取調
不苦候條本年十一月限可差出事
農産表編成例旨

第一

此農産表ハ全國必要ナル農業上ノ產出物ニ就テ其播種
地産額通價ノ増減ヲ徴センカ爲ニ編成スル所ナリ

管內物産取調規則

第二

物産ノ種類ヲ大別シテ二種トナス第一普通物産第二特
有物産是ナリ

第三

普通物産トハ各地一般ニ耕種スル所ノ日用食料ノ要品
ヲ謂フ此類ヲ定メテ十四種トナス

第四

特有物産トハ地質氣候等ノ異同ニヨリテ産出ノ地方限
リアルモノヲ謂フ此種類ヲ假定シテ廿八種トナス其目
左ノ如シ

- 藍葉アヲハ 製茶ササキヒ 甘蔗サツカ 楮皮カヅカ (雁皮三極ノ類之ニ準ス)
- 實綿ウズ 麻繭類アサヒ (自他製糸ニ拘ハラズ) (生糸類キイロ 賣買ニ拘ハラズ其總高ヲ掲クヘシ)

- 生蠟カニ 漆汁ウルシ 葉烟草タバコ 菜種ナタネ 紅花ベニバナ
- 紙類カミ 人參ニンジン 椎茸シイタケ 蘭ラン 蜂蜜ミツバチ

- 食鹽シホ 乾鮑カニ 乾蝦カニ 乾魚カニ 鰯ササギ
- 鱈カニ 海參カニ 鯨節カニ 石花茶カニ 干鰯カニ

第五

蔬菜菓實ノ類其生質腐敗シ易クシテ久藏遠輸ニ堪ヘサ
ルモノハ姑ク之ヲ除クヘシ但シ貯藏法ヲ得遠ク地方ニ
輸送スル著名ノ物産ハ此限リニアラス(例ヘハ紀州ノ蜜
柑甲州ノ葡萄美濃ノ柿ノ類ノ如シ)

第六

凡ソ物産ハ一郡毎ニ之ヲ調査ス若シ一郡ニシテ他管ニ
各管内物産取調規則

分涉スルモノハ宜シク其本管ニ係ルモノ、ミテ舉クヘシ

第七

數量ハ穀鹽類ニハ石ヲ用ヒ其他ハ都テ斤(百六十匁)ヲ用

フヘシ

第八

耕地ハ現ニ植物ヲ栽培スル所ノ段別ヲ謂フ

第九

通價ハ一郡中ノ平均ヲ取リ一石一斤ノ價額ヲ舉クヘシ

第十

凡ソ産額ノ増減平年ニ比較シテ大ニ差異アルモノハ必
ス其原因ヲ究認セサルヘカラス例ヘハ風雨寒暑水旱霜
蟲ノ災或ハ開墾培養種子器具方法ノ改良進歩或ハ貿易

會社ノ影響等ニヨリテ其産出ヲ増減伸縮スルノ類宜ク
其事由ヲ審カニシテ之ヲ每郡ノ表尾ニ附記スヘシ

第十一

凡ソ物産ノ調査ハ一時ニ各種ノ全備ヲ求メテ反テ其實
ヲ得サランヨリモ寧ロ下手ノ緩急難易ヲ酌量シテ特ニ
全力ヲ有用必益ノ物ニ注キ以テ其詳細確實ヲ要スルニ
若カストス故ニ或ハ地方ノ情況ニヨリ産額耕地通價ノ
三目中ニ於テ一時其實數ヲ得難キモノハ姑ラク其本目
ヲ闕略シテ漸次ニ之ヲ補填スヘシ倘シ各目均シク詳カ
ナラサルモノハ亦取テ臆算セス須ラシ他日ヲ待テ之ヲ
調査スヘシ